佐々弘雄著作目録

松 田　義 男　編

改訂 2024 年 7 月　7 日
2003 年 7 月 19 日

佐々弘雄(1897-1948)略歴

佐々弘雄は、1897(明治 30)年 1 月 23 日、克堂佐々友房の三男として熊本市に生まれる。1914 年、東京府立第四中学校(現都立戸山高等学校)を卒業し、旧制第五高等学校に入学。1917 年、東京帝国大学法学部政治学科に入学。1920 年、東京帝国大学を卒業し、法学部副手、助手となる。1922 年 6 月、政治学・政治史研究のため、イギリス・フランス・ドイツへの留学の途につく。1924 年、帰国、九州帝国大学法学部教授に就任、政治学を担当。1928 年 4 月 24 日、九州帝国大学を依願退官(三・一五事件に帝国大学生が多数いたとして「左傾教授」の辞職か休職を文部省が大学に要求。東京帝国大学の大森義太郎、京都帝国大学の河上肇、九州帝国大学の石浜知行、向坂逸郎、佐々弘雄が依願免職の形式で追放された)。退官後、三宅雪嶺が主宰する『我観』、雪嶺の女婿中野正剛が社長を務める『九州日報』をはじめ、『改造』、『中央公論』、『経済往来』などに政治評論・人物評論などを執筆。1934 年 3 月、朝日新聞社に入社。論説委員、副主筆(1942 年)、主任論説委員(1943 年)、論説主幹(1945 年 3 月)として社説を執筆。1946 年 3 月、朝日新聞社を退社、第一回参議院選挙全国区に立候補し当選（無所属）、緑風会を結成。1947 年 7 月 8 日、熊本日日新聞社社長就任。1948 年 10 月 9 日、逝去。

凡例

* 「1．著書」、「2．共著単行書所収」、「3．辞典類」、「4．論文等(新聞・雑誌掲載)」に大別し、それぞれ年次順に配列し、評論集収録評論について「5．評論集初出」を付した。
* 原本未確認の著作については*を付した。
* 連載は、初回掲載に一括した。
* 雑誌目次中の表題と本文表題とが異なる場合、原則として後者を採用した。
* 新聞・雑誌の特集名・掲載欄を適宜[　]で示したほか、無題の場合は[　]に示して仮題とした。
* 掲載雑誌の巻号数は、第 1 巻第 1 号→1-1 と表記し、日刊新聞の号数は省略した。
* 座談会については、実施月日・出席者などを[　]に注記した。
* その他、編者の注記は適宜[　]で示した。

本著作目録の作成に際しては、岡山大学付属図書館、京都大学経済学部図書室、京都府立総合資料館、熊本県立図書館、神戸大学付属図書館、国立国会図書館、高千穂大学図書館、東京大学総合図書館、日本近代文学館、兵庫県立図書館、法政大学大原社会問題研究所、早稲田大学中央図書館より資料閲覧の便宜を得ました。付記して謝意を表します。

１．著書

『政治の貧困 転換期の政治批判』千倉書房、1931 年 2 月 20 日

『世界大思想全集 第 2 期第 16 マキアベリよりレニンまで』[服部実・横川次郎との共訳。原著：Karl Vorlander. *Von Machiavelli bis Lenin:neuzeirliche Staats- und Gesellschaftstheorien,* 1926]春秋社、1931 年 11 月 1 日

『大衆政治読本』中央公論社、1932 年 3 月 23 日

『日本ファッシズムの発展過程』浅野書店、1932 年 4 月 20 日

『政局危機の動向』千倉書房、1932 年 11 月 23 日

『人物春秋』改造社、1933 年 7 月 21 日

『街頭政治読本 政治認識の基礎知識』千倉書房、1933 年 4 月 25 日

『強力政治の将来』河出書房、1934 年 2 月 7 日

『ファッシズム国家学』中央公論社、1934 年 8 月 3 日[戸野原史朗との共訳、原著 Herbert W. Schneider, *Making the fascist state*,1928]

『続人物春秋』改造社、1935 年 5 月 17 日

『西郷隆盛伝』＜偉人伝全集 第 11 巻＞改造社、1936 年 10 月 26 日

『東亜新秩序論』神戸実業組合聯合会、1939 年 4 月 12 日[2 月 8 日講演会速記於神戸市立勧業会館]

『日本政治の発展と趨向』＜太平洋問題資料 11＞日本国際協会、1941 年 1 月

『昭和政治悲史』＜ラジオパンフレット 2＞日本放送出版協会、1946 年 6 月 1 日

『政治は思想と信念から』＜国民平和叢書 1＞国民平和協会、1948 年 2 月 15 日

『政治力の形成』＜国民平和叢書 5＞国民平和協会、1948 年 6 月 15 日[「宗教と政治と婦人」(『熊本日日新聞』1947 年 11 月 25､26 日)､「政治力の形成」(『朝日評論』3-4、1948 年 4 月 1 日)､「県政と国政」(『熊本日日新聞』1948 年 6 月 22､23 日)を収録]

『世界の命運』国立書院、1948 年 7 月 5 日

2. 共著

英国労働党の成立綱領並に政策『各国無産政党発達史』社会思想社編＜社会思想叢書 第 7 編＞、同人社書店、1926 年 12 月 8 日

政治学方法序論(吉野作造編『政治学研究 小野塚教授在職廿五年記念』第 1 巻、岩波書店、1927 年 12 月 25 日

現代政治哲学問題『哲学講座 第十五』近代社、1928 年 6 月 20 日[表紙には 7 月 20 日発行とある][『哲学講座』第 9 巻(誠文堂、1931 年 10 月 15 日)、『哲学講座』 第 6(近代社、1947 年)再録]

正当なる労働に対する正当なる賃銀[訳]『マルクス=エンゲルス全集 第 12 巻』改造社、1928 年 8 月 5 日

フランスに於ける叛逆者と間諜[訳]『マルクス=エンゲルス全集 第 4 巻』改造社、1928 年 10 月 8 日

支那印度論[訳]『マルクス=エンゲルス全集 第 6 巻』改造社、1928 年 12 月 28 日

汎スラブ主義[訳]『マルクス=エンゲルス全集 第 7 巻』改造社、1929 年 4 月 15 日

議会問題に於けるイギリスの批判[宗道太との共訳]『マルクス=エンゲルス全集 第 7 巻』改造社、1929 年 4 月 15 日

カール、フォレンダア「近世国家社会学説史」に就て『第二期思想全集付録』9、春秋社、1929 年 11 月

『君論』解題『明治文化全集 第三巻 政治篇』日本評論社、1929 年 11 月 20 日

墺太利共和国の展望『世界現状大観 Ⅱ独逸共和国篇』新潮社、1930 年 10 月 25 日

雑誌と評論『綜合ヂャーナリズム講座 第 2 巻』内外社、1930 年 11 月 1 日[復刻：日本図書センター、2004 年 6 月]

イデオロギーとしての政治『イデオロギー論』理想社出版部、1931 年 7 月 10 日

日本政党の研究『婦人公論大学 政治経済篇』中央公論社、1931 年 8 月 14 日

哲学と政治学との交渉『岩波講座哲学 第 10 巻 哲学と諸科学との交渉』岩波書店、1932 年 6 月 20 日

ファッシズムと現代『ファッシズム研究』改造社、1932 年 7 月 27 日

政治篇[監修]『中央公論年報 1934 年版』＜『中央公論』49-1 付録＞、1934 年 1 月 1 日

熊本人に就て『我等の熊本』我等の熊本刊行会編・刊、1934 年 11 月 20 日

分らない偉人－人物評論の一考察－『世界を描く－随筆五十人集』[聞人会編]立命館出版部、1935 年 1 月 2 日[『続人物春秋』収録]

挙国一致内閣制の動勢『日本国際年鑑(昭和十年版)』河出書房、1935 年 5 月 12 日

日本右翼的政党及び団体の組織とその動向『日本国際年鑑(昭和十年版)』河出書房、1935 年 5 月 12 日

興亜院論『アジア問題講座 第二巻－政治・軍事篇（二)－』創元社、1939 年 1 月 15 日

The development and trends of Japanese politics『*Recent political and economic developments in Japan*("Far Eastern conflict" series)』Japanese Council Institute of Pacific Relations[日本国際協会太平洋問題調査部]、1941 年 12 月 29 日[『日本政治の発展と趨向』(日本国際協会、1941 年)の英語版]

祝辞[「国体法の研究」刊行完成祝賀会記録]『国体法の研究 天皇は統治権・実の主体にして権利の総攬者たるを論ず』＜増訂新版＞里見岸雄著、錦正社、1942 年 7 月 20 日

祖国再建の理論と人間[「救国者の条件」]『救国者は誰か 再建日本各界人物記』＜『自由国民』19-5＞時局月報社、1946 年 12 月 10 日

戦後の日本政党論『五大政党を解剖する』政治経済評論社、1948 年 5 月 5 日

3. 辞典類

『社会科学大辞典』[社会思想社編]改造社、1930 年 5 月 15 日[執筆項目：「アイルランド」「アヴェナリウス」「アスキス」「アフリカ」「アメリカ合衆国」「新井白石」「アラスカ」「イギリス」「イギリス共産党」「イギリス独立労働党」「イギリス労働党」「板垣退助」「イタリー」「伊藤博文」「岩倉具視」「インテリゲンチア」「インド」「ウエツブ」「ウオーレス」「エジプト」「エンジエル」「王安石」「大久保利通」「オーストラリア」「オーストラリア労働党」「オーストリア」「王陽明」「オランダ」「カナダ」「カブール」「管仲」「関東大震災」「韓非子」「官僚政治」「帰化」「キツド」「木戸孝允」「キユーバ」「ギリシア」「キング」「近世政治学説」「近世政治史」「グラツドストーン」「グリーン」「現代政治学」「黒人問題」「ゴスリング」「西園寺公望」「ジエームス」「支那」「社会政策」「シヤム」「所有」「シルレル」「スウイス」「ステインネス」「スペイン」「政策」「政治及び政治学」「政治闘争」「政党」「ダマシユケ」「チエツコスロヴアキア」「デイズレーリ」「デ・ヴアレラ」「ドイツ」「トルコ」「中江篤介」「日露戦争」「二宮尊徳」「日本」「ニユージーランド」「ニユージーランド労働党」「ノールウエー」「バジヨツト」「パナマ」「バルカン諸国」「バルチツク沿岸諸国」「ハワイ」「ハンガリー」「ピツト」「秘密結社」「フアツシズム」「フイリツピン諸島」「フオード」「ブライト」「ブラジル」「フランス」「フランスの政党」「ブリス」「ヘーラクライトス」「ヘツケル」「ベルギー」「ポーランド」「保守主義」「ポルトガル」「マツハ」「南アフリカ」「メキシコ」「唯物論」「横井小楠」「ラツセル」「ラツツエルホーフエル」「ラデイカリズム」「ルナチヤルスキー」「ロイド・ジヨージ」「ロシア」「ロリア」「ワーレン」「ワラス」]

『大百科事典 第 9 巻』平凡社、1932 年 8 月 19 日[執筆項目：「国際政治」「国家学説」]

『大百科事典 第 14 巻』平凡社、1933 年 1 月 19 日[執筆項目：「政治学」「政治革命」「政治教育」「政治組織」]

『大百科事典 第 24 巻』平凡社、1933 年 11 月 20 日[執筆項目：「民本主義」]

4. 論文等(新聞・雑誌掲載)＜734 篇＞

1919(大正 8)年

先駆者を憶ふ『デモクラシイ』1-2、4 月 1 日 [「解放と先駆者」と改題、『解放』1-2(7 月 1 日)に投稿]

クロポトキン[「人物評伝」]『デモクラシイ』1-5、7 月 1 日

解放と先駆者[「自由論壇」]『解放』1-2、7 月 1 日[「先駆者を憶ふ」(『デモクラシイ』1-2、4 月 1 日)と同文]

[「村人語」蘭の「弘雄」署名文]『デモクラシイ』1-5、7 月 1 日

1920(大正 9)年

政治現象としての自由、平等及国家施設の原理[「雑録」]『国家学会雑誌』34-10、10 月 1 日

1921(大正 10)年

「新人の使命」「新社会の基礎」「死線を超えて」[「新刊紹介」]『国家学会雑誌』35-1、1 月 1 日

トルストイの政治学的地位『国家学会雑誌』35-2、2 月 1 日

最近社会思潮の二大特徴としての国家の新位置と中央集権の分裂進化 杉森孝次郎[「雑報 講演消息」]『国家学会雑誌』35-4、4 月 1 日

大戦中大戦後の米国の外交 村川堅固[「雑報 講演消息」]『国家学会雑誌』35-4、4 月 1 日

政治学の将来に就いて『万朝報』4 月 12 日

報導並に短評の態度[「米州外交時事」]『国際法外交雑誌』20-4、4 月 15 日

ハーデイング白亜館に入る[「米州外交時事」]『国際法外交雑誌』20-4、4 月 15 日

ヤツプ島問題概観[「米州外交時事」]『国際法外交雑誌』20-4、4 月 15 日

対支借款[「米州外交時事」]『国際法外交雑誌』20-4、4 月 15 日

対露通商拒絶[「米州外交時事」]『国際法外交雑誌』20-4、4 月 15 日

海軍問題一斑[「米州外交時事」]『国際法外交雑誌』20-4、4 月 15 日

新墺太利政情[「雑報」]『国家学会雑誌』35-5、5 月 1 日

ウツド将軍の使命[「米州外交時事」]『国際法外交雑誌』20-6、7 月 1 日

比律賓独立問題[「米州外交時事」]『国際法外交雑誌』20-6、7 月 1 日

米国海運と船員罷業[「米州外交時事」]『国際法外交雑誌』20-6、7 月 1 日

米国軍備縮小輿論[「米州外交時事」]『国際法外交雑誌』20-6、7 月 1 日

ヤツプ島の国際化[「米州外交時事」]『国際法外交雑誌』20-6、7 月 1 日

日英同盟更新と米国[「米州外交時事」]『国際法外交雑誌』20-6、7 月 1 日

長谷川如是閑氏著「現代国家批判」[「新刊紹介」]『国家学会雑誌』35-10、10 月 1 日

ニユー、レパブリツク紙の救露意見[「米州外交時事」]『国際法外交雑誌』20-8、10 月 15 日

フーヴァ氏の救露条件[「米州外交時事」]『国際法外交雑誌』20-8、10 月 15 日

墨西哥石油問題[「米州外交時事」]『国際法外交雑誌』20-8、10 月 15 日

対独墺平和宣言と対独墺媾和条約[「米州外交時事」]『国際法外交雑誌』20-8、10 月 15 日

ヤツプ問題の推移[「米州外交時事」]『国際法外交雑誌』20-8、10 月 15 日

ヤツプの門戸開放[「米州外交時事」]『国際法外交雑誌』20-8、10 月 15 日

米国排日三件[「米州外交時事」]『国際法外交雑誌』20-8、10 月 15 日

華盛頓会議と其の効果[「米州外交時事」]『国際法外交雑誌』20-8、10 月 15 日

チエツク、スラヴアキアの外交策[「海外政治事情」]『国家学会雑誌』35-11、11 月 1 日

カツセル条約[「海外政治事情」]『国家学会雑誌』35-11、11 月 1 日

米国一般方針に関する国務省の声明[「米州外交時事」]『国際法外交雑誌』20-9、11 月 15 日

米国に於ける華盛頓会議の準備[「米州外交時事」]『国際法外交雑誌』20-9、11 月 15 日

ハーヴアト、フーヴァ氏の手紙[「米州外交時事」]『国際法外交雑誌』20-9、11 月 15 日

波斯の対米通商促進[「米州外交時事」]『国際法外交雑誌』20-9、11 月 15 日

中央アメリカ連邦の成立[「米州外交時事」]『国際法外交雑誌』20-9、11 月 15 日

反ハプスブルグ同盟[「海外政治事情」]『国家学会雑誌』35-12、12 月 1 日

ルマノ、ポリツシユ同盟[「海外政治事情」]『国家学会雑誌』35-12、12 月 1 日

英国労働党の組織改造[M. Beer, History of British socialism の抄訳]『ナロオド』6、12 月 1 日

国家連合の意義に就いて『国際法外交雑誌』20-10、12 月 15 日

レオナルド、ウツド新比律賓総督[「米州外交時事」]『国際法外交雑誌』20-10、12 月 15 日

マニユエル、エル、ケゾン氏の比島独立意見[「米州外交時事」]『国際法外交雑誌』20-10、12 月 15 日

中央亜米利加連邦後聞[「米州外交時事」]『国際法外交雑誌』20-10、12 月 15 日

ラテンアメリカ諸国の接近運動[「米州外交時事」]『国際法外交雑誌』20-10、12 月 15 日

ヒユーズ氏の海軍縮小案と七割説[「米州外交時事」]『国際法外交雑誌』20-10、12 月 15 日

1922(大正 11)年

平和的協調の伊太利[「海外政治事情」]『国家学会雑誌』36-1、1 月 1 日

フエーメ共和国大統領[「海外政治事情」]『国家学会雑誌』36-1、1 月 1 日

ユーゴースラヴイア王位継承問題[「海外政治事情」]『国家学会雑誌』36-1、1 月 1 日

ヤツプ島問題解決[「米州外交時事」]『国際法外交雑誌』21-1、1 月 15 日

華盛頓会議に於ける潜航艇紛議と四国協定の成立[「米州外交時事」]『国際法外交雑誌』21-1、1 月 15 日

ブルガリアとソヴィエット[「海外政治事情」]『国家学会雑誌』36-2、2 月 1 日

ルーマニアとソヴィエット[「海外政治事情」]『国家学会雑誌』36-2、2 月 1 日

ゼノア会議に対する米国政府の態度[「米州外交時事」]『国際法外交雑誌』21-2、2 月 15 日

ウツド将軍の報告と国民党の立場[「米州外交時事」]『国際法外交雑誌』21-2、2 月 15 日

日米関係の将来に於ける趨勢[「米州外交時事」]『国際法外交雑誌』21-2、2 月 15 日

米国上院の研究『日本読書協会甲種会報』18、2 月 15 日

印度に於ける政治的不安[「海外政治事情」]『国家学会雑誌』36-3、3 月 1 日

比律賓国民党の分裂[「米州外交時事」]『国際法外交雑誌』21-3、3 月 15 日

西伯利亜撤兵問題に関するヒューズ氏の陳述及米国輿論[「米州外交時事」]『国際法外交雑誌』21-3、3 月 15 日

英国近代社会主義運動『社会思想』1-1～4、4 月 1 日、5 月 1 日、6 月 1 日、7 月 1 日

米国上院の批准を了せる四国協約[「米州外交時事」]『国際法外交雑誌』21-4、4 月 15 日

四国協商と日英同盟並に国家連合案[「米州外交時事」]『国際法外交雑誌』21-4、4 月 15 日

米国政府のゼノア会議不参加通告[「米州外交時事」]『国際法外交雑誌』21-4、4 月 15 日

1925(大正 14)年

貨幣相場安定の問題『社会思想』4-2、2 月 1 日[「貨幣相場の問題」と改題、『街頭政治読本』収録]

英国労働党の成立と其の綱領『社会思想』4-4、4 月 1 日

1927(昭和 2)年

支那関税会議『社会思想』6-3、3 月 1 日

マキアヴェリズムに就いて『外交時報』537、4 月 15 日

兆民居士政治遺訓『法律春秋』2-7、7 月 1 日

日本人口問題『社会思想』6-9、9 月 1 日 [『政治の貧困』収録]

普通選挙制度批判『国家学会雑誌』41-12、12 月 1 日[『政治の貧困』収録]

1928(昭和 3)年

現代政局の中心問題『九州日報』7 月 18～26 日

アメリカに於ける全国的労働党の結成(一九一九年)『我等』10-7、8、8 月 1 日、9 月 1 日

アメリカ労働階級の政治行動『改造』10-9、9 月 1 日

中国国民党政策批判『社会思想』7-10、10 月 1 日

形式社会学論 新明正道著[「新刊紹介」]『社会思想』7-10、10 月 1 日

日系市民の問題－布哇に於ける米人殺害事件－『帝国大学新聞』265、10 月 1 日

小選挙区制論『九州日報』10 月 2～4 日

支那をめぐる日英米露『外交時報』573、10 月 15 日

[「新日本は如何に進まん 御大典を一期として」]『九州日報』11 月 20 日

今中次麿著『政治学に於ける方法二元論』[「紹介及批判」]『国家学会雑誌』42-12、12 月 1 日

蝋山政道著 国際政治と国際行政[「新刊紹介」]『社会思想』7-12、12 月 1 日

笠信太郎著「シユペングラーの歴史主義的立場」[「新刊紹介」]『社会思想』7-12、12 月 1 日

対支政策としての日英提携『九州日報』12 月 11～14、16、18、19 日[16、18、19 日付は「夕刊」]

1929(昭和 4)年

アメリカ社会、政治の現段階[「世界各国最近の動向」]『改造』11-1、1 月 1 日

アメリカ移民に鑑みて[「学究的立場より観たるブラジル移住」]『ブラジル』3-1、1 月 1 日

対支国論統一と支那国家観[「時観」]『社会思想』8-2、2 月 1 日

満州問題の意義『帝国大学新聞』283、2 月 4 日

国難独逸の雄弁[「世界の雄弁を聴く」]『改造』11-3、3 月 1 日[「シュトレーゼマンの雄弁」と改題、『人物春秋』収録]

蝋山君新著『国際政治と国際行政』を読みて『外交時報』582、3 月 15 日

政治学[「社会科学文献批評」]『社会科学』5-1＜3 月特輯号＞、3 月 25 日

現代と政治と社会政策『九州日報』4 月 3～6 日

議会と社会政策『九州日報』4 月 26～30 日、5 月 1 日

グローテュウスの政治思想『外交時報』587、5 月 15 日

大衆党の成立及崩壊の過程『九州日報』5 月 25～28 日[『政治の貧困』収録]

「事実」と哲学、科学、政治[「学界余談」]『東京朝日新聞』6 月 1～3 日

英露関係論－支那を中心として－『法律春秋』4-6、6 月 1 日

支那に於ける内争と国際政治[「時観」]『社会思想』8-7、7 月 1 日

政治理論と現代政治の傾向『我観』68、7 月 1 日[『政治の貧困』収録]

総選挙に勝てるイギリス労働党『経済往来』4-7、7 月 1 日

イギリス総選挙の印象及び批判『文芸春秋』7-7、7 月 1 日

議会解散問題と政局の展望『九州日報』7 月 29～31 日、8 月 2～4 日

現代支那の政治及政治思想『支那』20-9、9 月 1 日

二宮尊徳の政治思想『我観』70～73、9 月 1 日、10 月 1 日、11 月 1 日、12 月 1 日[『続人物春秋』収録]

イギリス労働党の失業政策『社会政策時報』108、9 月 1 日

希臘に於ける政治思想『外交時報』595、9 月 15 日

予算説明会応答の所感『九州日報』9 月 15、17 日

失業問題の意義及その対策『九州日報[夕刊]』9 月 17、18、20～22、28、29 日、10 月 1、2 日[『政治の貧困』収録]

William E. Hecking, Man and the State, 1926[「紹介及批判」]『国家学会雑誌』43-10、10 月 1 日

買勲事件に就いて[「時観」]『社会思想』8-10、10 月 1 日

改組運動と政治過程[「支那の動きとその解説」]『九州日報』10 月 8～11 日

軍縮会議の基調は果して平和主義か『帝国大学新聞』310、10 月 8 日

俳味[「現代世界展望」]『東京朝日新聞』10 月 31 日

政友会の新政策とその将来『九州日報』11 月 6～10 日

ヘーゲル研究への入門『帝国大学新聞』316、11 月 8 日

陸軍縮小問題の意義『我観』73、12 月 1 日

政治上から見た減俸案『法律春秋』4-12、12 月 1 日

猪俣津南雄氏著「現代日本研究」[「読書ペーヂ」]『東京朝日新聞』12 月 13 日

1930(昭和 5)年

政治的強力について[「特輯 力」]『我観』74、1 月 1 日[『政治の貧困』収録]

金解禁後の新政策[「政治時評」]『経済往来』5-1、1 月 1 日

昭和五年の政友会[「政治時評」]『経済往来』5-1、1 月 1 日

疑獄事件の政治化か政治の疑獄化か[「政治時評」]『経済往来』5-1、1 月 1 日

無産党の進出か？[「政治時評」]『経済往来』5-1、1 月 1 日

南京政府政権の動揺[「時観」]『社会思想』9-1、1 月 1 日

解散来る！ 政界大掃除の好機『九州日報』1 月 14 日

革正運動の社会的観察[「選挙革正への実際問題」]『我観』75、2 月 1 日

社会科学及政治学の一般的問題－田辺元博士の「科学に於ける階級性」を読みて－『経済往来』5-2、2 月 1 日[『政治の貧困』収録]

東京市政と市電大罷業[「政治時評」]『経済往来』5-2、2 月 1 日

地方自治機関の崩壊現象[「政治時評」]『経済往来』5-2、2 月 1 日

選挙革正[「政治時評」]『経済往来』5-2、2 月 1 日

社会民衆党遂に分裂[「政治時評」]『経済往来』5-2、2 月 1 日

ビブリオマニの話『東京朝日新聞』2 月 15、17、18 日

紡績業操業短縮問題の非社会性『我観』76、3 月 1 日

プロレタリア政治学の理論と実際『改造』12-3、3 月 1 日[『政治の貧困』収録]

議会解散の理由及意義[「政治時評」]『経済往来』5-3、3 月 1 日

各政党の選挙スローガン[「政治時評」]『経済往来』5-3、3 月 1 日

無産党の選挙協定の破綻[「政治時評」]『経済往来』5-3、3 月 1 日

教育政策の問題[「政治時評」]『経済往来』5-3、3 月 1 日

朝鮮及印度における不安[「政治時評」]『経済往来』5-3、3 月 1 日

独立無産党内閣の予想『中央公論』45-3、3 月 1 日[『政治の貧困』収録]

「ソウエート連邦の実相」『現代日本研究』[「読書ペーヂ」]『東京朝日新聞』3 月 14 日

政党論『我観』77、4 月 1 日[『政治の貧困』収録]

無産政党の合同及びその将来『我観』77、4 月 1 日[『政治の貧困』収録]

総選挙結果と無産、民政、政友[「政治時評」]『経済往来』5-4、4 月 1 日

無産党合同問題[「政治時評」]『経済往来』5-4、4 月 1 日

労働組合法と失業対策[「政治時評」]『経済往来』5-4、4 月 1 日

犬養総裁とビーヴァーブルック卿[「政治時評」]『経済往来』5-4、4 月 1 日

東方に於ける古代政治思想『外交時報』609、4 月 15 日

ロンドン海軍条約の文化観『九州日報』4 月 28､30 日、5 月 1､2 日[「海軍軍縮問題－ロンドン海軍条約の文化観－」と改題、『政治の貧困』収録]

鐘紡減給争議はどうなる『我観』78、5 月 1 日

政界無風地帯に入る[「政治時評」]『経済往来』5-5、5 月 1 日

ドクタア・ケメラーの報告書とは[「政治時評」]『経済往来』5-5、5 月 1 日

フーヴェリズムの支那進出[「政治時評」]『経済往来』5-5、5 月 1 日

国防責任論戦の時代風景『九州日報[夕刊]』5 月 5､7～9 日[「統帥権問題－国防責任論戦の時代風景－」と改題、『政治の貧困』収録]

政争から政治闘争への過程『我観』79、6 月 1 日[『政治の貧困』収録]

公営事業における罷業[「労働争議の現実的把握」]『我観』79、6 月 1 日

統帥権問題の内容と本質[「政治時評」]『経済往来』5-6、6 月 1 日

無産政党と議会内の闘争[「政治時評」]『経済往来』5-6、6 月 1 日

大山郁夫氏の演説[「政治時評」]『経済往来』5-6、6 月 1 日

支那に於ける共産系の活躍[「政治時評」]『経済往来』5-6、6 月 1 日

社会科学鳥瞰図 The Encyclopedia of the Social Sciences『帝国大学新聞』342、6 月 2 日

社会科学大辞典の編纂について『社会科学』6-1、6 月 8 日

印度革命運動の意義『京都帝国大学新聞』125、6 月 21 日

印度革命の現段階『我観』80、7 月 1 日

教育行政の合理化－日本大学紛争など－[「政治時評」]『経済往来』5-7、7 月 1 日

自由主義政治と極左運動の激化[「政治時評」]『経済往来』5-7、7 月 1 日

内外試練下のイギリス－労働党内閣空前の危機－[「世界の苦悶」]『我観』81、8 月 1 日

教育行政の強化 - 日本大学問題再論 - 『経済往来』5-8、8 月 1 日

金融資本主義政策を見る『経済往来』5-8、8 月 1 日

現代日本の政治過程に於ける封建勢力『我観』82、9 月 1 日[「貴族院・枢密院論－現代日本の政治過程に於ける封建勢力－」と改題、『政治の貧困』収録]

第三政府の成立－支那の変局－[「政治時評」]『経済往来』5-9、9 月 1 日

全国大衆党の結党－結党大会を観る－[「政治時評」]『経済往来』5-9、9 月 1 日

枢密院の秋色[「時事片々」]『九州日報』9 月 18 日[『街頭政治読本』収録]

飛行機回顧[「時事片々」]『九州日報』9 月 19 日

野球は峠を越へた[「時事片々」]『九州日報』9 月 20 日[『街頭政治読本』収録]

織田幹雄選手とドイツ[「時事片々」]『九州日報』9 月 23 日[『街頭政治読本』収録]

大東京所感[「時事片々」]『九州日報』9 月 24 日[「大東京の顔」と改題、『街頭政治読本』収録]

嵐を孕む現国際対立関係『我観』83、10 月 1 日

政治学説史論『外交時報』620、10 月 1 日

イギリス社会主義の変質[「政治時評」]『経済往来』5-10、10 月 1 日

枢密院問題の時代風景[「政治時評」]『経済往来』5-10、10 月 1 日

日米戦争論につき[随筆]『文芸春秋』8-11、10 月 1 日

早慶戦切符問題[「時事片々」]『九州日報』10 月 21 日

叔母の上京[「時事片々」]『九州日報』10 月 23 日

ブリューニングの演説とフランス[「時事片々」]『九州日報』10 月 24 日[『街頭政治読本』収録]

国際政治とＲ一〇一号[「時事片々」]『九州日報』10 月 25 日[『街頭政治読本』収録]

教育制度の変革期[「時事片々」]『九州日報』10 月 26 日[『街頭政治読本』収録]

教育行政上のスポーツ政策[「政治時評」]『経済往来』5-12、11 月 1 日

陸軍縮小は可能か[「政治時評」]『経済往来』5-12、11 月 1 日

浜口君の心腸－首相遭難の個人観[「時事片々」]『九州日報』11 月 20 日[『人物春秋』収録]

婦人労働問題の歴史的文献『帝国大学新聞』361、11 月 20 日

浜口首相の遭難『九州日報[夕刊]』11 月 21～23 日[『人物春秋』収録]

煙突上のインテリゲンツイヤ[「時事片々」]『九州日報』11 月 24 日[『街頭政治読本』収録]

政治の貧困[「時事片々」]『九州日報』11 月 25 日

疑獄はどうして起るか[「時事片々」]『九州日報』11 月 26 日

昭和十七疑士[「時事片々」]『九州日報』11 月 27 日[『街頭政治読本』収録]

冬来りなば[「時事片々」]『九州日報』11 月 28 日

日英経済提携は可能か？－イギリス経済使節の来訪について－[「政治時評」]『経済往来』5-13、12 月 1 日

無産政党合同の新気運『九州日報』12 月 11､12 日

一九三〇年の学界『九州日報 12 月 27 日[『新聞集成昭和編年史 第五巻 昭和五年度』(新聞集成大正昭和編年史刊行会、1958 年)収録]

貧困線[「時事片々」]『九州日報』12 月 28 日[『街頭政治読本』収録]

クリスマスの銀座[「時事片々」]『九州日報』12 月 30 日

1931(昭和 6)年

政治を語る『九州日報』1 月 1､3～6 日[『街頭政治読本』収録]

議会事なきか？[「時事片片」]『九州日報』1 月 5 日

枢密院だけでも!![「時事片片」]『九州日報』1 月 6 日[『街頭政治読本』収録]

売淫と社会[「時事片片」]『九州日報』1 月 7 日[『街頭政治読本』収録]

北窓[「時事片片」]『九州日報』1 月 8 日

自由主義かファツシズム化か『改造』13-2、2 月 1 日

昭和六年度予算の反動性『批判』2-2、2 月 1 日

独裁主義の問題－カウツキー及びレーニンのプロレタリアート独裁理論につき－『法律春秋』6-2、2 月 1 日

ヂヤーナリズムと輿論と『九州日報』2 月 3､4 日

写真[「時事片片」]『九州日報』2 月 10 日

大内兵衛教授の名著[「時事片片」]『九州日報』2 月 11 日

大内兵衛教授の名著[「時事片片」]『九州日報』2 月 12 日

酒[「時事片々」]『九州日報』2 月 13 日

フアツシズムの国家化と国際化[「時事片々」]『九州日報』2 月 15 日[『街頭政治読本』収録]

議会経済論戦に現れた資本家経済の苦悶[「政治経済時評」]『エコノミスト』9-4、2 月 15 日

コーヒー一杯[「時事片々」]『九州日報』2 月 16 日

ある雪の日[「時事片々」]『九州日報』2 月 18 日

議会政治の危機『九州日報』2 月 22～27 日

議会政治の顛落[「乱闘議会批判」]『改造』13-3、3 月 1 日[『日本ファッシズムの発展過程』収録]

スペインの動揺[「時事片々」]『九州日報』3 月 6 日[『街頭政治読本』収録]

その後に来るもの[「時事片々」]『九州日報』3 月 7 日

学校の春[「時事片々」]『九州日報』3 月 8 日

苛法酷律[「時事片々」]『九州日報』3 月 9 日

中国国際借款問題－胡漢民氏の失脚に関連して－[「政治経済時評」]『エコノミスト』9-6、3 月 15 日

プロレタリア解放運動と宗教『中外日報』3 月 25～28 日

春眠の政局『九州日報[夕刊]』3 月 29、31 日、4 月 1、2 日

張良論『改造』13-4、4 月 1 日[『人物春秋』収録]

議会制度の危機に於けるファッシズム[「議会制度とファッシズム批判」]『経済往来』6-4、4 月 1 日[「議会制度の危機とファッシズム」と改題、『日本ファッシズムの発展過程』]

論壇時評『中央公論』46-4、4 月 1 日

生産高と失業[「時事片々」]『九州日報』4 月 10 日[『街頭政治読本』収録]

春[「時事片々」]『九州日報』4 月 11、13 日

タマニーホール[「時事片々」]『九州日報』4 月 14 日[『街頭政治読本』収録]

渋温泉の一夜[「時事片々」]『九州日報』4 月 15 日

音楽[「時事片々」]『九州日報』4 月 16 日[『街頭政治読本』収録]

政局を支配するもの－金融寡頭政治の実相－[「没落か更生か既成政党」]『改造』13-5、5 月 1 日[『日本ファッシズムの発展過程』収録]

若槻新総裁論『改造』13-5、5 月 1 日[『人物春秋』収録]

戦争記－フリドリヒ・エンゲルスと戦争－『批判』2-5、5 月 1 日

神宮新球場にて[「時事片々」]『九州日報』5 月 15、16 日

犯人判明す[「時事片々」]『九州日報』5 月 23 日

学生検挙の問題[「時事片々」]『九州日報』5 月 24 日

スポーツの再認識『九州日報』5 月 24、26、27 日

金の話[「時事片々」]『九州日報』5 月 25 日[『街頭政治読本』収録]

第二次世界戦争の機会[「第二次世界戦争は果して起るか？」]『経済往来』6-6、6 月 1 日

日本ファッシズムの発展過程[「日本ファッシズムへの展望」]『中央公論』46-6、6 月 1 日[『日本ファッシズムの発展過程』収録]

減俸案問題の解剖[「政治経済時評」]『エコノミスト』9-12、6 月 15 日[「減俸案問題」と改題、『日本ファッシズムの発展過程』収録]

総裁ごつこ[「時事片々」]『九州日報』6 月 18 日[『街頭政治読本』収録]

単一無産政党論印象『[明治大学]駿台新報』290、6 月 20 日

早慶戦唯物史観[「時事片々」]『九州日報』6 月 20、21 日[『街頭政治読本』収録]

益田豊彦君訳『無産者政治教程』[「時事片々」]『九州日報』6 月 24 日

金忠輔[「時事片々」]『九州日報』6 月 26 日

人物市場の伯楽 馬場恒吾氏の新著－政界人物風景を読む[「読書ページ」]『東京朝日新聞』6 月 26 日

英雄は不代替物か[「時事片片」]『九州日報』6 月 30 日、7 月 1 日[『人物春秋』収録]

我国金融寡頭政治「現代大衆読本」『中央公論』46-7、7 月 1 日

各政党の勢力分布「現代大衆読本」『中央公論』46-7、7 月 1 日

九軌の大火[「時事片片」]『九州日報』7 月 17 日

神田より赤坂へ[「時事片片」]『九州日報』7 月 19 日

なんせんす[「時事片片」]『九州日報』7 月 20 日[「なんせんすの背後」と改題、『街頭政治読本』収録]]

中野克明君[「時事片片」]『九州日報』7 月 23 日

ラヂオ論[「時事片片」]『九州日報』7 月 27 日[『街頭政治読本』収録]

大地[「時事片片」]『九州日報』7 月 28 日

人間としてのマルクス[「時事片片」]『九州日報』7 月 29 日[『人物春秋』収録]

大山と麻生『改造』13-8、8 月 1 日[『人物春秋』収録]

転落期のイギリス帝国主義『社会政策時報』131、8 月 1 日

学制改革案『九州日報』8 月 11、12 日

中野正剛氏著「沈滞日本の更正」[「ブツクレヴユウ」]『九州日報』8 月 13 日

菊池寛氏の「ナポレオン伝」評－偉人伝全集について－[「ブツクレヴユウ」]『九州日報』8 月 13 日

A と B との会話[「時事片片」]『九州日報』8 月 16 日[『街頭政治読本』収録]

迷信の食物[「時事片片」]『九州日報』8 月 18 日[『街頭政治読本』収録]

種田少将を刺した！[随筆]『文芸春秋』9-9、9 月 1 日

マクドナルド『満州日報[夕刊]』9 月 6 日

生活と真実[「時事片片」]『九州日報』9 月 12、13 日

日本金融資本主義政治の解剖 森喜一氏の新著を読む[「読書顧問」]『時事新報』9 月 14 日

反動の赤化『満州日報[夕刊]』9 月 18 日

教師と生徒との関係[「時事片片」]『九州日報』9 月 19、20 日[『街頭政治読本』収録]

奉天事件の勃発[「満蒙の事変をどう見る」]『エコノミスト』9-19、10 月 1 日[『日本ファッシズムの発展過程』収録]

日華危機迫る [「政治時評」]『改造』13-19、10 月 1 日[『日本ファッシズムの発展過程』収録]

江木翼の引退[「政治時評」]『改造』13-19、10 月 1 日[『人物春秋』収録]

現代大学論『理想』19、10 月 1 日

旅[「時事片片」]『九州日報』10 月 7 日

逸題[「時事片片」]『九州日報』10 月 8 日

元老、重臣の出馬[「時事片片」]『九州日報』10 月 20 日[『街頭政治読本』収録]

るんぺん。へんぺん[「時事片片」]『九州日報』10 月 25 日

ハイド・パークの有閑風景[「時事片片」]『九州日報』10 月 26～28 日[『街頭政治読本』収録]

強行軍部と幣原外交[「満州事変」]『改造』13-11、11 月 1 日[『日本ファッシズムの発展過程』]

全面的政治抗争[「震撼する東亜」]『中央公論』46-11、11 月 1 日[「日支全面的政治抗争」と改題、『日本ファッシズムの発展過程』収録]

父性[「時事片片」]『九州日報』11 月 5～7 日[『街頭政治読本』収録]

ファツシズム論『改造』13-12、12 月 1 日[『日本ファッシズムの発展過程』収録]

東京政治経済研究所編『世界政治経済年鑑』[「新刊紹介」]『批判』2-11、12 月 1 日

河上博士に答へる『東京朝日新聞』12 月 5､6 日

珍品五〇の受領証[「時事片片」]『九州日報』12 月 16 日[『街頭政治読本』収録]

協力内閣と単独内閣『九州日報』12 月 17～19 日[『日本ファッシズムの発展過程』収録]

『時の人』赤松克麿君[「時事片片」]『九州日報』12 月 20､21 日[『人物春秋』収録]

政友内閣の政治的分析『帝国大学新聞』412、12 月 21 日[『日本ファッシズムの発展過程』収録]

河上肇と吉野作造[「時事片片」]『九州日報』12 月 29､30 日[「河上肇と吉野作造の対照観」と改題、『人物春秋』収録]

1932(昭和 7)年

恐慌裡の政変[「論説」]『エコノミスト』10-1、1 月 1 日

犬養内閣論『改造』14-1、1 月 1 日[『日本ファッシズムの発展過程』収録]

1932 年政治的展望『九州日報』1 月 1､3～9 日

国際連盟論『経済往来』7-1、1 月 1 日

時局座談会 ファツシズム批判『経済往来』7-1、1 月 1 日[12 月 4 日座談会：蝋山政道、赤松克麿]

議会政治とフアツシズム[「現代日本の再検討」]『中央公論』47-1、1 月 1 日

評論の評論[「時事片片」]『九州日報』1 月 14､15 日

政局動乱期に入る[「政治時評」]『改造』14-2、2 月 1 日[『日本ファッシズムの発展過程』収録]

金融的事件[「論壇批判」]『読売新聞』2 月 5 日

金融的事件？ 鈴木、馬場氏の論評[「論壇批判」]『読売新聞』2 月 6 日

国民社会主義の分析 山川均氏の論旨を観る[「論壇批判」]『読売新聞』2 月 7 日

蝋山教授のアジアモンロー主義[「論壇批判」]『読売新聞』2 月 9 日

国際危機爆発に関する読物[「論壇批判」]『読売新聞』2 月 11 日

再読三思せしむる力作 大塚博士の論文[「論壇批判」]『読売新聞』2 月 12 日

人及び政治家としての井上準之助『改造』14-3、3 月 1 日[『人物春秋』収録]

危機に立つ大民政党『中央公論』47-3、3 月 1 日

国民社会党の分析『社会政策時報』138、3 月 1 日

総選挙縦横座談会『文芸春秋』10-3、3 月 1 日[2 月 1 日座談会(於レインボーグリル)：阿部真之助、赤松克麿、山浦貫一、馬場恒吾、野村秀雄、管忠雄]

ギャングの発生は歴史的必然性『アサヒグラフ』18-13、3 月 23 日

政友会の内紛とその前途『九州日報』3 月 23～25 日[『日本ファッシズムの発展過程』収録]

テロリズムとギヤング[「時事片々」]『九州日報』3 月 27～29 日[『街頭政治読本』収録]

民政党の前途『改造』14-4、4 月 1 日[「総選挙後の民政党とその前途」と改題、『日本ファッシズムの発展過程』収録]

久原房之助氏に物を訊く座談会『文芸春秋』10-4、4 月 1 日[座談会(於銀座・花月)：御手洗辰雄、菊池寛、菅忠雄]

インフレーションの話[「時事片々」]『九州日報』4 月 5､6 日[『街頭政治読本』収録]

書斎[「時事片々」]『九州日報』4 月 7 日

資本と政治[「時事片々」]『九州日報』4 月 8､9 日[『街頭政治読本』収録]

嵐の前に立つ大政友会『改造』14-5、5 月 1 日[『政局危機の動向』収録]

失業対策の失業[「政治時評」]『経済往来』7-5、5 月 1 日[『政局危機の動向』収録]

無産党陣営アジアの嵐[「政治時評」]『経済往来』7-5、5 月 1 日[『政局危機の動向』収録]

時事三題『婦人之友』26-5、1932-5 月 1 日【1.三井三菱の國家奉仕! 、2.ヒトラー大統領選擧戰、3.インテリ層の苦悩】[1 を「資本家階級と満州－三井・三菱の国家奉仕！」と改題『政局危機の動向』収録]

ブルジヨア・フエミニズムを克服せよ『婦人公論』17-5、5 月 1 日

学校当局の答弁[「時事片々」]『九州日報』5 月 8～10 日[『街頭政治読本』収録]

マラソン競争[「時事片々」]『九州日報』5 月 11 日[『街頭政治読本』収録]

ある煩悶[「時事片々」]『九州日報』5 月 13 日

愛[「時事片々」]『九州日報』5 月 15～17､19 日

ファツシズム内閣論『改造』14-6、6 月 1 日[『政局危機の動向』収録]

臨時議会論－フアツシズムの新運動－『経済往来』7-6、6 月 1 日[『政局危機の動向』収録]

犬養毅の晴天『日本国民』1-2、6 月 1 日

*ファッシズムの話『日本講演通信』145、6 月 5 日

農村苦悩の政治化『エコノミスト』10-12、6 月 15 日[『政局危機の動向』収録]

非常時日本の政治的展望『改造』14-7、7 月 1 日[『政局危機の動向』収録]

非常時内閣論『経済往来』7-7、7 月 1 日[「斉藤非常時内閣論」と改題『政局危機の動向』収録]

うらら[「時事片々」]『九州日報』7 月 17 日[「婦人煙草うらら」と改題、『街頭政治読本』収録]

農村救済策の救済[「時事片々」]『九州日報』7 月 18､19 日[『街頭政治読本』収録]

『人生案内』と『自由を我等に』[「時事片々」]『九州日報』7 月 20～22 日

フアツシズム解説『九州日報[夕刊]』7 月 22～24､26～29､31 日、8 月 3 日[「フアツシズム略解」と改題、『政局危機の動向』収録]

ぐりむぷす[「時事片々」]『九州日報』7 月 25 日

茂森唯士氏訳『日本経済恐慌の研究』[「時事片々」]『九州日報』7 月 26 日

阿部勇氏訳ナヒムソンの『財政学』[「時事片々」]『九州日報』7 月 27 日

伊沢多喜男の政治的立場『改造』14-8、8 月 1 日[『人物春秋』収録]

斉藤内閣と修正議会主義『経済往来』7-8、8 月 1 日[『政局危機の動向』収録]

大民政党の分裂裏話『中央公論』47-9、8 月 1 日[「民政党裏話」と改題、『政局危機の動向』収録]

政界新人と少壮評論家 新日本建設座談会『文芸春秋』10-8、8 月 1 日[座談会：風見章、野中徹也、杉浦武雄、大森義太郎、中野正剛、香月保、林広吉、菅忠雄]

見透しと論説を主[「新聞に対して、一番不満不愉快な点はドコか」]『週刊時局新聞』1、8 月 15 日

満州政策の切断面『改造』14-9、9 月 1 日[『政局危機の動向』収録]

斉藤内閣の次に来るもの『経済往来』7-9、9 月 1 日[『政局危機の動向』収録]

社会大衆党と労働組合会議『社会政策時報』144、9 月 1 日[『政局危機の動向』収録]

戦争論[「九月の論壇」]『東京朝日新聞』9 月 1、2 日

議会日日 傍聴席から『九州日報[夕刊]』9 月 3[朝刊]、4、6 日[「斉藤内閣時代－傍聴席から」と改題、『街頭政治読本』収録]

政局観[「九月の論壇」]『東京朝日新聞』9 月 3 日

満州問題－景気－哲学[「九月の論壇」]『東京朝日新聞』9 月 4 日

ファツシズムの話[7 月 15 日定例講演於水交社]『有終』19-9、10、9 月 5 日、10 月 5 日

障子のない秋[「時事片々」]『九州日報』9 月 20 日

秋の俳句[「時事片々」]『九州日報』9 月 26 日

大川周明論『改造』14-10、10 月 1 日[『人物春秋』収録]

非常時議会の内外批判『経済往来』7-11、10 月 1 日[『政局危機の動向』収録]

政局の廻転『日本国民』1-6、10 月 1 日[『政局危機の動向』収録]

[「けふの問題」]『九州日報[夕刊]』10 月 5 日

リツトン報告書の批判と非常時日本の態度[「論壇時評」]『読売新聞』10 月 5 日

[「今日の問題」]『九州日報[夕刊]』10 月 6 日

ジヤーナリズムの動向を示す現代評論の分野[「論壇時評」]『読売新聞』10 月 6 日

[「今日の問題」]『九州日報[夕刊]』10 月 7 日

指導理論のない理由並に須井一の思想[「論壇時評」]『読売新聞』10 月 7 日

[「今日の問題」]『九州日報[夕刊]』10 月 8 日

特殊雑誌の暴露物と長谷川、高橋氏等の論文[「論壇時評」]『読売新聞』10 月 8 日

[「今日の問題」]『九州日報[夕刊]』10 月 9 日

学校と学問『週刊朝日』22-17、10 月 9 日[『街頭政治読本』収録]

危機神学の反動性並に時局を取扱つた論文[「論壇時評」]『読売新聞』10 月 9 日

[「今日の問題」]『九州日報[夕刊]』10 月 11 日

大内、石浜氏等の論文と雑然たる素材の配列[「論壇時評」]『読売新聞』10 月 11 日

[「今日の問題」]『九州日報[夕刊]』10 月 12 日

[「今日の問題」]『九州日報[夕刊]』10 月 13 日

[「今日の問題」]『九州日報[夕刊]』10 月 15 日

[「今日の問題」]『九州日報[夕刊]』10 月 16 日

[「今日の問題」]『九州日報[夕刊]』10 月 20 日

[「今日の問題」]『九州日報[夕刊]』10 月 21 日

[「今日の問題」]『九州日報[夕刊]』10 月 22 日

日－支－露－満関係の再認識『九州日報』10 月 22～25 日[「日露支関係の再認識」と改題、『政局危機の動向』収録]

小新聞[「時事片々」]『九州日報』10 月 27 日[『街頭政治読本』収録]

[「今日の問題」]『九州日報[夕刊]』10 月 27 日

人物論[「時事片々」]『九州日報』10 月 29、30 日[『人物春秋』収録]

日支露満関係の再認識『我観』108、11 月 1 日

政治発展の理論『改造』14-11、11 月 1 日

リットン報告書『改造』14-11、11 月 1 日[『政局危機の動向』収録]

財政危機と政局危機『経済往来』7-12、11 月 1 日[『政局危機の動向』収録]

[「今日の問題」]『九州日報[夕刊]』11 月 1 日

[「今日の問題」]『九州日報[夕刊]』11 月 2 日

[「今日の問題」]『九州日報[夕刊]』11 月 3 日

[「今日の問題」]『九州日報[夕刊]』11 月 6 日

[「今日の問題」]『九州日報[夕刊]』11 月 8 日

[「今日の問題」]『九州日報[夕刊]』11 月 9 日

[「今日の問題」]『九州日報[夕刊]』11 月 10 日

米大統領の更代と日本への影響[「動くアメリカを観る」]『読売新聞』11 月 11 日

[「今日の問題」]『九州日報[夕刊]』11 月 12 日

財政危機時代[「今日の問題」]『九州日報[夕刊]』11 月 13、16～19 日[『強力政治の将来』収録]

[「今日の問題」]『九州日報[夕刊]』11 月 22 日

[「今日の問題」]『九州日報[夕刊]』11 月 23 日

[「今日の問題」]『九州日報[夕刊]』11 月 25 日

政局はどうなる[「今日の問題」]『九州日報[夕刊]』11 月 26、27、29、30 日

政界ダーク・ホース論『改造』14-12、12 月 1 日[『人物春秋』収録]

ルーズヴエルトの当選と日本政局『経済往来』7-13、12 月 1 日[『強力政治の将来』収録]

[「今日の問題」]『九州日報[夕刊]』12 月 4 日

[「今日の問題」]『九州日報[夕刊]』12 月 6 日

[「今日の問題」]『九州日報[夕刊]』12 月 7 日

連盟総会の形勢[「今日の問題」]『九州日報[夕刊]』12 月 10 日

[「今日の問題」]『九州日報[夕刊]』12 月 11 日

[「今日の問題」]『九州日報[夕刊]』12 月 16 日

戦債問題の重要性[「今日の問題」]『九州日報[夕刊]』12 月 18 日

[「今日の問題」]『九州日報[夕刊]』12 月 21 日

[「今日の問題」]『九州日報[夕刊]』12 月 22 日

[「今日の問題」]『九州日報[夕刊]』12 月 23 日

議会前[「今日の問題」]『九州日報[夕刊]』12 月 25 日

[「今日の問題」]『九州日報[夕刊]』12 月 28 日

フアシズムの理論と実際－日本フアシズム運動の特種性－[11 月 2 日社会大衆党城西支部主催講演会於牛込城西仏教会館]『講演』204、12 月 30 日

1933(昭和 8)年

昭和八年政局の変局－扈大予算案をめぐる政府、政党、軍部－『改造』15-1、1 月 1 日[『強力政治の将来』収録]

宇垣一成の政治的立場『経済往来』8-1、1 月 1 日[『人物春秋』収録]

森恪論『経済往来』8-1、1 月 1 日[『人物春秋』収録]

どんな内閣が来るだろう？日本政局の気象『帝国大学新聞』460、1 月 1 日

ファシズムとは何か[講演大要(於参政権協会主催研究会)、文責在記者]『婦人新報』418、1 月 1 日

政治展望[「1933 年の問題」]『婦人之友』27-1、1 月 1 日

[「今日の問題」]『九州日報[夕刊]』1 月 15 日

[「今日の問題」]『九州日報[夕刊]』1 月 17 日

[「今日の問題」]『九州日報[夕刊]』1 月 18 日

[「今日の問題」]『九州日報[夕刊]』1 月 19 日

三三年・政局の動向[「ジャーナリズム線上の人物点検」]『都新聞』1 月 23～27 日

[「今日の問題」]『九州日報[夕刊]』1 月 26 日

学堂の心境『九州日報』1 月[27]～30 日[「尾崎学堂の心境」と改題、『人物春秋』収録]

[「今日の問題」]『九州日報[夕刊]』1 月 29 日

[「今日の問題」]『九州日報[夕刊]』2 月 8 日

[「今日の問題」]『九州日報[夕刊]』2 月 9 日

[「今日の問題」]『九州日報[夕刊]』2 月 10 日

[「カンニングに対する社会の叱声」]『[明治大学]駿台新報』340、2 月 10 日

[「今日の問題」]『九州日報[夕刊]』2 月 11 日

堺利彦翁[「時事片々」]『九州日報』2 月 12 日[『人物春秋』収録]

アメリカ外交と日本[「時事片々」]『九州日報』2 月 17 日[『強力政治の将来』収録]

エノケン[「時事片々」]『九州日報』2 月 18 日[「エノケンの芸術」と改題、『街頭政治読本』収録]

河上肇と大塚金之助『改造』15-3、3 月 1 日[『人物春秋』収録]

斉藤内閣につぐもの『経済往来』8-3、3 月 1 日[『加州毎日新聞』3 月 16～18、20～23 日に転載]

新聞時評－新聞経営論－『中央公論』48-3、3 月 1 日[「新聞企業を解剖する」と改題、『街頭政治読本』収録]

大里伝平君の死[「随筆」]『文芸春秋』11-3、3 月 1 日

虚脱政治の危険性[「政治時評」]『文芸春秋』11-3、3 月 1 日[『強力政治の将来』収録]

世界政治の破局を繞つて[「論壇時評」]『読売新聞』3 月 12 日

米国金融大恐慌の極東政治への影響[「論壇時評」]『読売新聞』3 月 14 日[『強力政治の将来』収録]

就職戦線[「学苑」]『九州日報』3 月 15 日

座談会 経済封鎖討論『改造』15-4 、4 月 1 日[3 月 4 日座談会(於帝国ホテル)：加藤恭平、蝋山政道、高橋亀吉、日比野正治、牧野輝智、本間雅晴、山本実彦]

国際危機対策を政局は解決し得るか？『経済往来』8-4、4 月 1 日[「国際危機と我政界の対策」と改題、『強力政治の将来』収録]

支那動乱と国際危険[「政治時評」]『文芸春秋』11-4、4 月 1 日[『強力政治の将来』収録]

読売新聞[「時事小言」]『九州日報』4 月 7 日

後継内閣は何処へ『ダイヤモンド』21-12、4 月 11 日

政変は必至『九州日報[夕刊]』4 月 11～13 日[「政変の根本問題－政変必至論」と改題、『街頭政治読本』収録]

経済封鎖[「時事小言」]『九州日報』4 月 16 日

外務省人事問題[「時事小言」]『九州日報』4 月 18 日

石油受難[「時事小言」]『九州日報』4 月 22 日

米国の対露承認問題[「時事小言」]『九州日報』4 月 24 日

後継内閣論『改造』15-5、5 月 1 日[『強力政治の将来』収録]

支那危局と日本政局『経済往来』8-5、5 月 1 日[『強力政治の将来』収録]

小川郷太郎君[「次の大蔵大臣を推薦す」]『実業之世界』30-5、5 月 1 日

吉野作造博士とデモクラシー[「吉野博士を偲ぶ」]『中央公論』48-5、5 月 1 日[『人物春秋』、赤松克麿編『故吉野博士を語る』(中央公論社、1934 年 4 月 18 日)収録]

非常時後継内閣座談会『中央公論』48-5、5 月 1 日[4 月 10 日座談会(於丸ノ内会館)：長谷川如是閑、風見章、野村秀雄、山口義一、麻生久、桜井兵五郎、清沢洌、柴田善三郎、嶋中雄作]

印綿不買は不可能だ[「時事小言」]『九州日報』5 月 13 日

ナチス文化政策批判－文芸アカデミー弾圧に関連して－『読売新聞』5 月 13、14 日[『強力政治の将来』収録]

日英関係悪化の大勢[「時事小言」]『九州日報』5 月 27 日

印綿不買は不可能だ[「街頭ジヤーナリズム」]『我観』115、6 月 1 日

大政友会の煩悶『改造』15-6、6 月 1 日[『強力政治の将来』収録]

鳩山文相論－京大事件側面観－[「学苑」]『九州日報』6 月 1～3 日[『人物春秋』収録]

『科学の観点』[「学苑」]『九州日報』6 月 4 日

高橋是清と云ふ人物[「学苑」]『九州日報』6 月 5､6 日[『人物春秋』収録]

自由主義とフアッショ『東京朝日新聞』6 月 8～10 日[『強力政治の将来』収録]

性格的弱さ[「転向をどう見る？」]『週刊時局新聞』22、6 月 20 日

所感一つ二つ『京都帝国大学新聞』184、6 月 21 日

学者になります[「非常時の新職業として貴下は如何なる職業を選ばれるか－青年大衆には何を奨められるか」]『サラリーマン』6-5、6 月 25 日

高橋是清といふ人物『我観』116、7 月 1 日[『九州日報』6 月 5､6 日から転載]

政党政治の崩壊過程『改造』15-7、7 月 1 日[『強力政治の将来』収録]

感想[「佐野・鍋山の転向批判」]『改造』15-7、7 月 1 日[「佐野学に就いての感想」と改題、『人物春秋』収録]

[「五・一五事件を聴く」]『話』1-4、7 月 1 日

『大学の自治』を語る座談会『文芸春秋』11-7、7 月 1 日[座談会：長谷川如是閑、茂木惣兵衛、大森義太郎、向坂逸郎、石浜知行、三枝博音、菅忠雄]

鈴木入閣問題[「時事小言」]『九州日報』8 月 4 日

大学総長論『改造』15-9、9 月 1 日[『続人物春秋』収録]

無任所大臣論『中央公論』48-9、9 月 1 日[『強力政治の将来』収録]

自由主義検討座談会『文芸春秋』11-9、9 月 1 日[座談会(於大阪会館レインボウ・グリル)：芦田均、麻生久、長谷川如是閑、石浜知行、倉田百三、三木清、清沢洌] [『三木清研究資料集成』第 3 巻(クレス出版、2018 年)収録]

国策協定是々非々[「時事小言」]『九州日報』9 月 20 日

現内閣の間口と奥行[「時事小言」]『九州日報』9 月 22 日

頭山満翁[「非常時背後の人」]『改造』15-10、10 月 1 日[『続人物春秋』収録]

挙国一致内閣の実現『中央公論』48-10、10 月 1 日[「挙国一致内閣の宿題」と改題、『強力政治の将来』収録]

斉藤内閣の将来[「今月の問題」]『婦人之友』27-10、10 月 1 日[『強力政治の将来』収録]

外観か内容か[「時事小言」]『九州日報』11 月 1 日

新法学部長末広巌太郎『文芸春秋』11-11、11 月 1 日[『続人物春秋』収録]

国策協定是々非々[「街頭ジヤーナリズム」]『我観』120、11 月 5 日

[「読書灯 余の愛読書 推薦新刊書」]『読売新聞』11 月 7 日

山本実彦論[「文学雑誌と主宰者 人物とその業績」]『都新聞』11 月 9､10 日

米券案[「財界往来」]『九州日報』11 月 12 日

外観か内容か[「時事小言」]『九州日報』11 月 28 日

イギリスが全面的高率関税[「財界往来」]『九州日報』11 月 29 日

大毎王国騒動の文化観『改造』15-12、12 月 1 日[「城戸元亮論」と改題、『続人物春秋』収録]

独逸連盟脱退後の欧州政局座談会『世界知識』5-6、12 月 1 日[10 月 26 日座談会(於学士会館)：円地与四松、十川次郎、米田実、町田梓桜]

挙国一致内閣再論『中央公論』48-12、12 月 1 日

国際平和について[11 月 11 日講演(於世界平和記念日東京部会主催講演会)]『婦人新報』429、12 月 1 日

現内閣の間口と奥行 [「街頭ジヤーナリズム」]『我観』121、12 月 5 日

現内閣の間口と奥行 [「時事問題展望」]『我観』121、12 月 5 日

日ソ経済提携論[「日曜時評」]『読売新聞[夕刊]』12 月 11 日[『強力政治の将来』収録]

1934(昭和 9)年

外観か内容か[「時事問題展望」]『我観』122、1 月 1 日

高橋是清と若槻礼次郎『改造』16-1、1 月 1 日[『続人物春秋』収録]

[「本紙への批判 週刊への希望」]『週刊時局新聞』35、1 月 1 日

非常時に躍る人物『ダイヤモンド』22-1、1 月 1 日[座談会：石山賢吉、野崎龍七ほか]

一九三四年の政界展望『中央公論』49-1、1 月 1 日[『強力政治の将来』収録]

政局非常時風景[「非常時の跫音」]『中央公論』49-1、1 月 1 日

新らしき自由『婦人公論』19-1、1 月 1 日

[「この頃食卓にあつた話」]『婦人之友』28-1、1 月 1 日

政党政治教程[「対危機教程」]『文芸春秋』12-1、1 月 1 日

政治的建設の諸問題『九州日報』1 月 5､6 日

婦人参政権の将来[「一九三四年の展望」]『読売新聞』1 月 5 日

次の政権をめぐる人々『読売新聞』1 月 5～8､10～12､14 日[「政界首脳部論」と改題、『続人物春秋』収録]

政党政治は復活するか『改造』16-2、2 月 1 日[1 月 8 日座談会(於帝国ホテル)：島田俊雄、長谷川如是閑、富田幸次郎、松岡洋右、中野正剛、大森義太郎、山本実彦]

医学博士の問題[「博士疑獄の真相」]『中央公論』49-2、2 月 1 日

関税独裁権の問題[「週末短言」]『婦人之友』28-2、2 月 1 日

不満足の内政会談申合せ[「週末短言」]『婦人之友』28-2、2 月 1 日

35 年軍縮会議対策[「週末短言」]『婦人之友』28-2、2 月 1 日

政治的建設の諸問題『我観』123、2 月 5 日

林銑十郎と真崎甚三郎『改造』16-4、3 月 1 日

註文三箇条[「新陸相に与ふ」]『文芸春秋』12-3、3 月 1 日

次の政権をめぐる人々『北米時事』3 月 5～10、12、13 日

小野塚東大総長[「三大学総長論」]『東京朝日新聞』4 月 15～18 日[「小野塚東大総長論」と改題『続人物春秋』収録]

スポーツ－宗教－社会『東京朝日新聞』4 月 16 日

分析と綜合と創造[「週間話題」]『アサヒグラフ』22-22、5 月 30 日

後継内閣座談会『中央公論』49-8、7 月 1 日[出席者：阿部真之助、清沢洌、野村秀雄、御手洗辰雄、嶋中雄作]

新官僚論『大阪朝日新聞』7 月 17～20 日

だまされた話[「週間話題」]『アサヒグラフ』23-3、7 月 18 日

立身出世といふことをどう考へまた教へたらいゝか？[インタビュ]『児童』1-3、8 月 1 日

横光利一君のぐりむぷす[「週間話題」]『アサヒグラフ』23-8、8 月 22 日[「横光利一論」と改題、『続人物春秋』収録]

*二宮尊徳翁はどこが偉いか『児童』臨時号、9 月 18 日

内外政局評話『ダイヤモンド』22-29、10 月 1 日[記者インタビュ]

臨時議会の含蓄味[「週間話題」]『アサヒグラフ』23-15、10 月 10 日

国防と農村『我観』12-11、11 月 1 日[10 月 1 日座談会(於永楽倶楽部)：風見章、香月保、林広吉、坂西大佐、益田豊彦、加瀬三郎、松崎武雄、雨森隆道]

人物評論の科学『社会及国家』224、11 月 1 日[『続人物春秋』収録]

政党はどうなる？[「週間話題」]『アサヒグラフ』23-22、11 月 28 日

政党総裁論『改造』16-13、12 月 1 日

議会政治の将来[講演]『労働経済』5-12、12 月 1 日

1935(昭和 10)年

政党革新と政局の新動向『ダイヤモンド』23-1、1 月 1 日

新官僚の没落『中央公論』50-1、1 月 1 日

一九三五・六年の危機検討座談会『文芸春秋』13-1、1 月 1 日[1934 年 12 月 4 日座談会(於芝公園浪華家)：小野武夫、芦田均、高橋亀吉、田中耕太郎、平田晋策、横田喜三郎、斉藤龍太郎]

不発弾動議をさしはさんで[「週間話題」]『アサヒグラフ』24-3、1 月 16 日

月明、案外の獲物“専門家”芦田君の外交質問 破顔一笑外相の降壇ぶり[「議会展望車」]『大阪朝日新聞』1 月 26 日

解散問題を繞る政局の基本動向『改造』17-2、2 月 1 日

澱んだ雰囲気“五月雨趣味”の横溢[「議会展望車」]『大阪朝日新聞』2 月 5 日

寸劇“爆弾後始末”[「議会展望車」]『大阪朝日新聞』2 月 10 日

西郷南洲『改造』17-3、3 月 1 日[『続人物春秋』収録]

美濃部達吉論『中央公論』50-3、3 月 1 日[『続人物春秋』収録]

政治の心理[「週間話題」]『アサヒグラフ』24-10、3 月 6 日

内閣審議会論[「政治時評」]『経済往来』10-4、4 月 1 日

政治家の本質を論じて政治の復興に及ぶ『行動』3-4、4 月 1 日

佐々弘雄氏尾崎咢堂氏に訊く 議員生活四十五年 代議政治の現狀をいかに見る?[インタビュ]『婦人之友』29-4、4 月 1 日

審議会の重要性『ダイヤモンド』23-11、4 月 11 日

日蘇関係片々[「週間話題」]『アサヒグラフ』24-17、4 月 24 日

政策と擬政策[「教育随筆」]『教育』3-5、5 月 1 日

議会改革問題[「日本改造の諸問題」]『日本評論』11-5、5 月 1 日

大学検討座談会『文芸春秋』13-5、5 月 1 日[4 月 10 日座談会(於芝公園なには家) : 阿部真之助、木村正義、清沢洌、戸坂潤、中島太郎、原田実、森田草平、斎藤龍太郎]

審議会の運用[「週間話題」]『アサヒグラフ』24-21、5 月 22 日

政友大崩壊と新政党の問題『改造』17-6、6 月 1 日

内閣審議会の前途[「審議会を繞る政局の渦紋」]『中央公論』50-6、6 月 1 日

[「週間話題」]『アサヒグラフ』24-26、6 月 26 日

結構な暑さ[「週間話題」]『アサヒグラフ』25-7、8 月 14 日

現代政党論『行動』3-9、9 月 1 日

[「選挙粛正に関する「諸家の意見」]『壮年団』1-9、9 月 1 日

都会の窓[口絵]『婦人之友』29-9、9 月 1 日

床次から望月へ[「新人物春秋」]『大阪朝日新聞』9 月 11～13 日

スポーツ三人博士 医博東、文博辰野、法博末弘[「新人物春秋」]『大阪朝日新聞』9 月 21 日

非常時財政を担ふ人々[「新人物春秋」]『大阪朝日新聞』9 月 22、23、25 日

新党計画を繞る政局の現段階『改造』17-10、10 月 1 日

唐沢俊樹と吉田茂[「新人物春秋」]『大阪朝日新聞』10 月 7、9 日

府県会選挙管見[「週間話題」]『アサヒグラフ』25-15、10 月 9 日

松平恒雄と重光葵[「新人物春秋」]『大阪朝日新聞』10 月 22～24 日

岡田さんの次は誰れ？[「週間話題」]『アサヒグラフ』25-22、11 月 27 日

後継内閣論－政局の全局面研究－『改造』17-12、12 月 1 日

来議会と政党の将来[「今の問題」]『婦人之友』29-12、12 月 1 日

1936(昭和 11)年

解散断行論『改造』18-1、1 月 1 日

議会解散と政局『ダイヤモンド』24-1、1 月 1 日[12 月 12 日座談会(於交詢社)：風見章、頼母木桂吉、中島弥団次、前田米蔵、島田俊雄、松岡駒吉、阿部真之助、石山賢吉、野崎龍七]

[「1.日本が世界におくりたいもの 2.世界から日本にもらひたいもの」]『婦人之友』30-1、1 月 1 日

社会週語『アサヒグラフ』26-2、1 月 8 日

宇垣内閣出現の可能性[「解散後の政局とその財界影響」]『経済情報』11-2、1 月 11 日

犯罪と人情[「社会週語」]『アサヒグラフ』26-3、1 月 15 日

文化の音律と色彩[「社会週語」]『アサヒグラフ』26-4、1 月 22 日

文章論[「社会週語」]『アサヒグラフ』26-5、1 月 29 日

学堂を囲む(座談会)『日本評論』11-2、2 月 1 日[座談会：尾崎行雄、麻生久、蠟山政道、清沢洌]

民政党は何を求める[上記「学堂を囲む(座談会)」の一部を分離したもの]『日本評論』11-2、2 月 1 日[座談会：永井柳太郎、室伏高信、蠟山政道、清沢洌]

選挙風景[「社会週語」]『アサヒグラフ』26-6、2 月 5 日

社会週語『アサヒグラフ』26-7、2 月 12 日

牧野信一君の印象[「社会週語」]『アサヒグラフ』26-17、4 月 22 日

桜花を見る心[「社会週語」]『アサヒグラフ』26-18、4 月 29 日

下克上論『改造』18-5、5 月 1 日

議会の改革[「問題の風景」]『婦人之友』30-5、5 月 1 日

騙し方のさまざま[「社会週語」]『アサヒグラフ』26-19、5 月 6 日

フロイドと政治[「社会週語」]『アサヒグラフ』26-20、5 月 13 日

文明の悲劇[「社会週語」]『アサヒグラフ』26-21、5 月 22 日

広田首相の評判[「社会週語」]『アサヒグラフ』26-22、5 月 27 日

出版の浮世[「社会週語」]『アサヒグラフ』26-23、6 月 3 日

吏道の刷新[「社会週語」]『アサヒグラフ』26-24、6 月 10 日

ルール占領よりライン進駐へ[「社会週語」]『アサヒグラフ』26-25、6 月 17 日

内地を向いた外交[「社会週語」]『アサヒグラフ』26-26、6 月 24 日

高文試験の一新[「社会週語」]『アサヒグラフ』27-1、7 月 1 日

我国政治の現段階[「時局評論」]『壮年団』2-7、7 月 3 日

国策氾濫の是非[「社会週語」]『アサヒグラフ』27-3、7 月 15 日

電力民有国営[「社会週語」]『アサヒグラフ』27-4、7 月 22 日

行動主義文学[「社会週語」]『アサヒグラフ』27-5、7 月 29 日

スペイン内乱[「社会週語」]『アサヒグラフ』27-6、8 月 5 日

[「はがき問答 反英同盟か反露外交か」]『国策』3-2、8 月 5 日

スポーツ精神の徹底『アサヒグラフ』27-7、8 月 12 日

内閣の権威いづこ[「社会週語」]『アサヒグラフ』27-8、8 月 19 日

広田国策の政治的意義[「特輯　準戦時経済体制と広田内閣の役割」]『ダイヤモンド』24-30、10 月 1 日

議会改革をめぐる諸問題[「議会政治改革の渦」]『ダイヤモンド』24-34、11 月 11 日

政局の基本的動向『壮年団』2-12、12 月 1 日

[「本年度の傑作(端書回答)」]『文芸懇話会』1-12、12 月 1 日

1937(昭和 12)年

政党の反噬[「世界政治経済の動向」]『帝国大学新聞』654、1 月 1 日

英・独二国の中間型 挙国協力主義の強化[「1937 年の問題 政治」]『週刊朝日』31-2、1 月 3 日

総辞職の外なし[「広田内閣の審判」]『改造』19-2、2 月 1 日

政党の対議会態度[「第七十議会に与ふ」]『中央公論』52-2、2 月 1 日

新内閣の誕生と政党の没落[「議会は解散か」]『ダイヤモンド』25-5、2 月 11 日

政局の急展開！『週刊朝日』31-9、2 月 14 日

将軍宰相林銑十郎論『アサヒグラフ』28-8、2 月 17 日

『時局政治学』－含蓄ある関口泰氏の文章『帝国大学新聞』662、3 月 1 日

Public opinion in Japan takes own forms; is based on behavior『The Japan Advertiser』3 月 4 日[英文署名は、Hiro-o Sassa]

Our public opinions:voices heard and unheard『Contemporary Japan』5-4、3 月[英文署名は、Hiro-o Sassa]

解散時局の解剖[「解散から転廻する政治」]『ダイヤモンド』25-11、4 月 11 日

新党問題と林内閣の危機『改造』19-5、5 月 1 日

総選挙後に来るもの『財政経済時報』24-5、5 月 1 日

日本政治の特殊性を検討する座談会『文芸春秋』15-5、5 月 1 日[座談会：石浜知行、大森義太郎、向坂逸郎、丸山幹治、三木清、御手洗辰雄、横田喜三郎] [『三木清研究資料集成』第 3 巻(クレス出版、2018 年)収録]

総選挙批判『早稲田大学新聞』70、5 月 5 日

総選挙の意味と総辞職必至の政治動向『週刊朝日』31-24、5 月 16 日

企画庁の根本問題『経済知識』17-6、6 月 1 日

林内閣は退却しないか『財政経済時報』24-6、6 月 1 日

国民性の陶冶『婦人之友』31-6、6 月 1 日[4 月 30 日座談会(於南沢)：小西重直、野上豊一郎、今井登志喜、柳田国男、杉森孝次郎、蝋山政道、三木清、羽仁吉一、羽仁もと子]

新内閣の人々『東京朝日新聞』6 月 5～8 日[『大阪朝日新聞』6 月 5～8 日]

*雲を破る一脈の陽光『新東洋』6-6、6 月

林内閣の総辞職から近衛公の大命拝受へ『週刊朝日』31-29、6 月 13 日

新首相近衛文麿公[「近衛“挙国内閣”の形相」]『週刊朝日』31-30、6 月 20 日

『フアツシヨは強いか弱いか』大座談会『世界知識』10-7、7 月 1 日[5 月 24 日座談会(於陶々亭)：木下半治、清沢洌、杉森孝次郎、鈴木東民、町田梓楼、三輪寿壮]

近衛内閣と特別議会『改造』19-8、8 月 1 日

議場の近衛公『アサヒグラフ』29-6、8 月 11 日

心の追憶 『龍南』238、10 月 30 日

戦時内閣論『改造』19-12、11 月 1 日

支那事変の収局を語る『財政経済時報』24-11、11 月 1 日[座談会：加田哲二、黒田乙吉、藤枝丈夫、松本忠雄、横井半三郎、中村忠]

問題の都市 ミュンヘン[口絵]『婦人之友』31-11、11 月 1 日

[「カレントブックス」]『帝国大学新聞』697、11 月 29 日

内閣制度改革論[「近衛内閣の改造」]『中央公論』52-13、12 月 1 日

危局人物典型『改造』19-15 [増刊]、12 月 16 日

1938(昭和 13)年

アジア共感の世界政策と新支那『ダイヤモンド』26-1、1 月 1 日

決定的要因となるものは対支長期対立と国際政情[「一九三八年の諸問題 政治」]『週刊朝日』33-2、1 月 2 日

政局の混迷を衝く『ダイヤモンド』26-13、5 月 1 日

立上った近衛首相『アサヒグラフ』30-19、5 月 11 日

内閣大改造の意味と目的『ダイヤモンド』26-16、6 月 1 日

明治変革期の英雄を語る『大陸』1-2、7 月 1 日[5 月 12 日座談会(於山水楼)：中野正剛、徳富蘇峰、木村毅、杉山平助、藤井甚太郎、山本実彦]

内閣大改造の成功と今後の問題[「時の問題・人」]『婦人之友』32-7、7 月 1 日

*支那事変と国民組織『新国民運動』3、10 月

“東亜の新秩序” 内容の充当はこれから[「掲げられた大旆”東亜の新秩序”」]『週刊朝日』34-24、11 月 20 日

国民再組織運動はどうなるか[「戦時政治の動向」]『ダイヤモンド』26-35、11 月 21 日

1939(昭和 14)年

興亜院の使命[「世界の動き 国内」]『週刊朝日』35-1、1 月 1 日

[「国体法の研究」刊行完成祝賀会之記]の祝辞]『国体学雑誌』198、1 月 1 日[里見岸雄著『国体法の研究 天皇は統治権・実の主体にして権利の総攬者たるを論ず』＜増訂新版＞(錦正社、1942 年 7 月 20 日)収録]

[「事変第三年を迎ふるに当り壮年団運動に何を求むるか」]『壮年団』5-1、1 月 1 日

国民組織問題の検討『中央公論』54-1、1 月 1 日

国民再組織を語る『日本評論』14-1、1 月 1 日[座談会：千石与太郎、永田清、河野密、奥村喜和男、正木千冬、帆足計、勝間田清一、雨宮菊夫、室伏高信]

平沼内閣出現の意義『ダイヤモンド』27-2、1 月 11 日

政党の季節的内紛[「世界の動き 国内」]『週刊朝日』35-3、1 月 15 日

政変ならぬ政変　近衛より平沼へ[「世界の動き 国内」]『週刊朝日』35-5、1 月 22 日

戦時議会の新秩序[「世界の動き 国内」]『週刊朝日』35-6、1 月 29 日

戦時国策一貫の政治方法論『改造』21-2、2 月 1 日

政治外交研究懇談会『壮年団』5-10、10 月 10 日[9 月 16 日座談会(於軍人会館)：後藤隆之助、高橋雄豺、尾崎秀実]

1943(昭和 18)年

都心の秋色『アサヒカメラ』18-4、10 月 1 日

1945(昭和 20)年

焦土をめぐりて『朝日新聞』3 月 18 日

一億相哭の秋[無署名]『朝日新聞』社説、8 月 15 日

東条軍閥の罪過[無署名]『朝日新聞』社説、9 月 17 日

1946(昭和 21)年

総選挙と政党の理想『潮流』1-1、1 月 1 日[『世界の命運』収録]

誠実と真実を以て[「特集ラジオの転換に寄す」]『放送』6-1、1 月 1 日

婦人と政治『女性新聞』1、3 月 1 日

少国民と政治[「時局の問題」]『少国民の友』23-1、4 月 1 日

政治の後手と先手『トップ』1-1、5 月 1 日

戦争と平和－政党の理論に寄せて－『朝日評論』1-4、6 月 1 日[『世界の命運』収録]

政治の主体[「政治講座」]『婦人と政治』7 月 1 日[『世界の命運』収録]

歴史の動因と主体『世代』1-3、9 月 1 日[『世界の命運』収録]

わが新生活と世界観『進路』1-4、10 月 1 日[7 月 26 日座談会：三枝博音、岡邦雄]

食と職『食と生活』1-6、11 月 1 日[『世界の命運』収録]

代議士と常置委員会[「政治時評」]『新生』2-11、11 月 1 日

祖国再建の理論と人間『自由国民』19-5、11 月 10 日

1947(昭和 22)年

社会科学の四次元的展開『エコノミスト』26-2、1 月 11 日[『世界の命運』収録]

機構いじり[「声」]『朝日新聞』1 月 22 日

政治における心理と感覚『進路』2-3、3 月 1 日[『世界の命運』収録]

再建段階に入る“わが政治”[談]『北国毎日新聞』3 月 28 日[『新聞集成昭和編年史 昭和二十二年版 II』(新聞資料出版、1999 年)収録]

再建の秋[「都論壇」]『都新聞』4 月 6 日[『世界の命運』収録]

知識階級の運命と使命[「都論壇」]『都新聞』5 月 7 日[『世界の命運』収録]

祖国再建の理念[「人民評論」]『夕刊新大阪』460、5 月 13 日[『世界の命運』収録]

党略より理想へ[「どんな内閣を作るべきか」]『読売新聞』5 月 15 日[『世界の命運』収録]

片山内閣論『時事新報』6 月 10、13 日[『世界の命運』収録]

民主政治の具体化『九州タイムズ』6 月 12、13 日

社会党内閣の性格[「時評」]『女性新聞』39、6 月 21 日[『世界の命運』収録]

民主政治の具体化[「都論壇」]『都新聞』6 月 25 日[『世界の命運』収録]

新国会と国民の良識－民衆政治の基本をなすもの『婦人朝日』2-7、7 月 1 日[『世界の命運』収録]

就任に際して『熊本日日新聞』7 月 14 日

[「特輯 青年如何に生くべきか」]『青年の国』2-4、8 月 1 日

廿世紀の課題『世代』2-1、9 月 1 日[『世界の命運』収録]

平和への途[「教養講座」]『婦人之友』41-9、9 月 1 日[『世界の命運』収録]

政党理論の転換－社会党をめぐる政局批判－『朝日評論』2-10、10 月 1 日[『世界の命運』収録]

学生と政治『大学』1-5、10 月 1 日[『世界の命運』収録]

*日本の民主主義『民主教育』9 月・10 月

祖国再興の途[「公論」]『熊本日日新聞』10 月 12 日

日本輿論の解剖－その歴史的素描－『地上』1-7、11 月 1 日

批判は法律へも[「判事の餓死をどう見る」]『朝日新聞』11 月 6 日

石炭国管の成行[「公論」]『熊本日日新聞』11 月 14 日

政党法反対論[「公論」]『熊本日日新聞』11 月 21、22 日

宗教と政治と婦人[「公論」]『熊本日日新聞』11 月 25、26 日[『政治力の形成』収録]

片山西尾氏らへの忠言[「時評」]『読売新聞』12 月 8 日

A political survey『Nippon Times』12 月 18～20 日

講和会議に臨む国内態勢『工業情報』3-12、12 月 25 日[座談会：鍋山貞親、横山五市、井上縫三郎、市川恒三、林正夫、吉岡一朗、神保伸二]

1948(昭和 23)年

国民自立の歳『熊本日日新聞』1 月 1 日

平和への旅路－政治と宗教とのつながり『婦人朝日』3-1、1 月 1 日

新春政局展望[「公論」]『熊本日日新聞』1 月 13､14 日

[「容共か反共か 回答しない理由」]『日本週報』72・73、2 月 1 日

首班は自由党へ[「政局如何に収拾さるべきか」]『読売新聞』2 月 6 日

政局を語る－首相指名の混迷と新内閣への要望－『東洋経済新報』2311、2 月 28 日[座談会：岩淵辰雄、大塚万丈]

一問一答の意義[「問答前記」]『一問一答』1、3 月 1 日

保守と赤旗の政治論争『一問一答』1、3 月 1 日[座談会：徳田球一、山口喜久一郎]

小型になった政治家『サンデー毎日』52-10、3 月 7 日[対談：辰野隆と]

芦田内閣を語る『東京新聞』3 月 12～14 日[座談会：小坂善太郎、米窪満亮、周東英雄、野坂参三、船田享二]

昭和政治史抄『民衆大学』3-2､3、3 月 28 日、4 月 28 日

政治力の形成『朝日評論』3-4、4 月 1 日[『政治力の形成』収録]

党略政治を疑う『PHP』2-3、4 月 1 日

婦人の政治への途『食と生活』3-5、5 月 1 日

憲法記念の日『熊本日日新聞』5 月 3 日

県政と国政[「公論」]『熊本日日新聞』6 月 22､23 日[『政治力の形成』収録]

[「近頃の放送への注文」]『放送文化』3-4、6 月 30 日

5. 評論集初出

＊収録時に改題された評論は、初出掲載誌欄に原題を示した

『政治の貧困 転換期の政治批判』千倉書房、1931 年 2 月 20 日

収録評論	初出掲載誌
社会的貧困の歴史的発展	
政治貧困の二象徴	
労働者農民の生活相	
労資階級闘争の現状	
労資政治闘争の現段階	
政治理論と現代政治の傾向	『我観』68、1929 年 7 月 1 日
政治的強力について	『我観』74、1930 年 1 月 1 日
政争から政治闘争への過程	『我観』79、1930 年 6 月 1 日
政党論	『我観』77、1930 年 4 月 1 日
プロレタリア政治学の理論と実際	『改造』12-3、1930 年 3 月 1 日
社会科学及政治学の一般的問題	『経済往来』5-2、1930 年 2 月 1 日
無産政党論	
日本大衆党の成立及崩壊の過程	大衆党の成立及崩壊の過程『九州日報』1929 年 5 月 25～28 日
独立無産党内閣の予想	『中央公論』45-3、1930 年 3 月 1 日
無産政党の惨敗の理由	
無産政党の合同及びその将来	『我観』77、1930 年 4 月 1 日
全国大衆党の結党	『経済往来』5-9、1930 年 9 月 1 日
日本人口問題	『社会思想』6-9、1927 年 9 月 1 日
普通選挙制度批判	『国家学会雑誌』41-12、1927 年 12 月 1 日
失業問題の意義及その対策	『九州日報[夕刊]』1929 年 9 月 17、18、20～22、28、29 日、10 月 1、2 日
教育制度及行政の問題－教育の強力化―	
統帥権問題－国防責任論戦の時代風景－	国防責任論戦の時代風景『九州日報[夕刊]』1930 年 5 月 5、7～9 日
海軍軍縮問題－ロンドン海軍条約の文化観－	ロンドン海軍条約の文化観『九州日報』1930 年 4 月 28、30 日、5 月 1、2 日
貴族院・枢密院論－現代日本の政治過程に於ける封建勢力－	現代日本の政治過程に於ける封建勢力『我観』82、1930 年 9 月 1 日

『日本ファッシズムの発展過程』浅野書店、1932 年 4 月 20 日

収録評論	初出掲載誌
ファツシズム論	『改造』13-12、1931 年 12 月 1 日
議会制度の危機とファッシズム	議会制度の危機に於けるファッシズム『経済往来』6-4、1931 年 4 月 1 日
議会政治の顛落	『改造』13-3、1931 年 3 月 1 日
議会政治と革正運動	
浜口内閣と議会	
政局を支配するもの	『改造』13-5、1931 年 5 月 1 日
減俸案問題	減俸案問題の解剖『エコノミスト』9-12、1931 年 6 月 15 日
日本ファツシズムの発展過程	『中央公論』46-6、1931 年 6 月 1 日
日華危機迫る	『改造』13-19、1931 年 10 月 1 日
奉天事件の勃発	『エコノミスト』9-19、1931 年 10 月 1 日
日支全面的政治抗争	全面的政治抗争『中央公論』46-11、1931 年 11 月 1 日
強行軍部と幣原外交	『改造』13-11、1931 年 11 月 1 日
犬養内閣論	『改造』14-1、1932 年 1 月 1 日

政友内閣の政治的分析	『帝国大学新聞』412、1931 年 12 月 21 日
協力内閣と単独内閣	『九州日報』1931 年 12 月 17～19 日
政局動乱期に入る	『改造』14-2、1932 年 2 月 1 日
総選挙後の民政党とその前途	民政党の前途『改造』14-4、1932 年 4 月 1 日
政友会の内紛とその前途	『九州日報』1932 年 3 月 23～25 日

『政局危機の動向』千倉書房、1932 年 11 月 23 日

収録評論	初出掲載誌
嵐の前に立つ大政友会	『改造』14-5、1932 年 5 月 1 日
失業対策の失業	『経済往来』7-5、1932 年 5 月 1 日
無産党陣営アジアの嵐	『経済往来』7-5、1932 年 5 月 1 日
資本家階級と満州－三井・三菱の国家奉仕！－	三井三菱の国家奉仕！『婦人之友』26-5、1932 年 5 月 1 日
臨時議会論－フアツシズムの新運動－	『経済往来』7-6、1932 年 6 月 1 日
ファツシズム内閣論	『改造』14-6、1932 年 6 月 1 日
非常時日本の政治的展望	『改造』14-7、1932 年 7 月 1 日
斉藤非常時内閣論	非常時内閣論『経済往来』7-7、1932 年 7 月 1 日
農村苦悩の政治化	『エコノミスト』10-12、1932 年 6 月 15 日
斉藤内閣と修正議会主義	『経済往来』7-8、1932 年 8 月 1 日
民政党裏話	大民政党の分裂裏話『中央公論』47-11、1932 年 8 月 1 日
斉藤内閣の次に来るもの	『経済往来』7-9、1932 年 9 月 1 日
社会大衆党と労働組合会議	『社会政策時報』144、1932 年 9 月 1 日
満州政策の切断面	『改造』14-9、1932 年 9 月 1 日
政局の廻転	『日本国民』1-6、1932 年 10 月 1 日
非常時議会の内外批判	『経済往来』7-11、1932 年 10 月 1 日
財政危機と政局危機	『経済往来』7-12、1932 年 11 月 1 日
リットン報告書論	リットン報告書『改造』14-11、1932 年 11 月 1 日
日支露満関係の再認識	日－支－露－満関係の再認識『九州日報』1932 年 10 月 22～25 日
フアツシズム略解	フアツシズム解説『九州日報[夕刊]』1932 年 7 月 22～24、26～29、31 日、8 月 3 日

『人物春秋』改造社、1933 年 7 月 21 日

収録評論	初出掲載誌
人物論	『九州日報』1932 年 10 月 29、30 日
英雄は不代替物か	『九州日報』1931 年 6 月 30 日、7 月 1 日
大山と麻生	『改造』13-8、1931 年 8 月 1 日
大川周明論	『改造』14-10、1932 年 10 月 1 日
尾崎学堂の心境	学堂の心境『九州日報』1933 年 1 月[27]～30 日
河上肇と大塚金之助	『改造』15-3、1933 年 3 月 1 日
吉野作造博士とデモクラシー	『中央公論』48-5、1933 年 5 月 1 日
河上肇と吉野作造の対照観	河上肇と吉野作造『九州日報』1931 年 12 月 29、30 日
『時の人』赤松克麿君	『九州日報』1931 年 12 月 20、21 日
堺利彦翁	『九州日報』1933 年 2 月 12 日
佐野学に就いての感想	感想『改造』15-7、1933 年 7 月 1 日
直木三十五論	
青山能治の人物	
浜口首相の遭難	『九州日報[夕刊]』1930 年 11 月 21～23 日
浜口君の心腸－首相遭難の個人観	『九州日報』1930 年 11 月 20 日
若槻新総裁論	『改造』13-5、1931 年 5 月 1 日
久原房之助の人柄	
江木翼の引退	『改造』13-19、1931 年 10 月 1 日

人及び政治家としての井上準之助	『改造』14-3、1932 年 3 月 1 日
犬養毅宰相論	
犬養健の木堂観	
伊沢多喜男の政治的立場	『改造』14-8、1932 年 8 月 1 日
政界ダークホース論	『改造』14-12、1932 年 12 月 1 日
宇垣一成の政治的立場	『経済往来』8-1、1933 年 1 月 1 日
森恪論	『経済往来』8-1、1933 年 1 月 1 日
鈴木喜三郎論	
高橋是清と云ふ人物	『九州日報』1933 年 6 月 5､6 日
鳩山文相論－京大事件側面観－	『九州日報』1933 年 6 月 1～3 日
張良論	『改造』13-4、1931 年 4 月 1 日
諸葛孔明の人格	
人間としてのマルクス	『九州日報』1931 年 7 月 29 日
マクドナルド	
シユトレーゼマンの雄弁	国難独逸の雄弁『改造』11-3、1929 年 3 月 1 日

『街頭政治読本 政治認識の基礎知識』千倉書房、1933 年 4 月 25 日

収録評論	初出掲載誌
政治を語る	『九州日報』1931 年 1 月 1、3～6 日
資本と政治	『九州日報』1932 年 4 月 8､9 日
財閥と議会政治	
解散二風景	
ファツシズムと日本	
フアツシズムの国家化と国際化	『九州日報』1931 年 2 月 15 日
ギヤングの歴史性	
テロリズムとギヤング	『九州日報』1932 年 3 月 27～29 日
タマニーホール	『九州日報』1931 年 4 月 14 日
日系市民の問題	日系市民の問題－布哇に於ける米人殺害事件－『帝国大学新聞』265、1928 年 10 月 1 日
輿論とは何ぞや	
新聞企業を解剖する	新聞時評－新聞経営論－『中央公論』48-3、1933 年 3 月 1 日
ブルジヨア・フエミニズムの問題	ブルジヨア・フエミニズムを克服せよ『婦人公論』17-5、1932 年 5 月 1 日
貨幣相場の問題	貨幣相場安定の問題『社会思想』4-2、1925 年 2 月 1 日
インフレーションの話	『九州日報』1932 年 4 月 5､6 日
農村救済策の救済	『九州日報』1932 年 7 月 18､19 日
合法無産党の問題	
反動の赤化	
枢密院だけでも	『九州日報』1931 年 1 月 6 日
枢密院の秋色	『九州日報』1930 年 9 月 18 日
元老、重臣の出馬	『九州日報』1931 年 10 月 20 日
総裁ごつこ	『九州日報』1931 年 6 月 18 日
浜口出でずんば	
スペインの動揺	『九州日報』1931 年 3 月 6 日
ブリユーニングの演説とフランス	『九州日報』1930 年 10 月 24 日
国際政治とＲ一〇一号	『九州日報』1930 年 10 月 25 日
昭和十七疑士	『九州日報』1930 年 11 月 27 日
珍品五〇の受領証	『九州日報』1931 年 12 月 16 日
民政党内閣時代	
斉藤内閣時代－傍聴席から	議会日日 傍聴席から『九州日報[夕刊]』1932 年 9 月 3、4､6 日[3 日のみ朝刊]
政変の根本問題－政変必至論	政変は必至『九州日報[夕刊]』1933 年 4 月 11～13 日
貧困線	『九州日報』1930 年 12 月 28 日

生産高と失業	『九州日報』1931 年 4 月 10 日
売淫と社会	『九州日報』1931 年 1 月 7 日
A と B との会話	『九州日報』1931 年 8 月 16 日
金の話	『九州日報』1931 年 5 月 25 日
文化の危機	
ラヂオ論	『九州日報』1931 年 7 月 27 日
音楽	『九州日報』1931 年 4 月 16 日
大衆娯楽雑誌	
小新聞	『九州日報』1932 年 10 月 27 日
なんせんすの背後	なんせんす『九州日報』1931 年 7 月 20 日
婦人煙草うらら	うらら『九州日報』1932 年 7 月 17 日
迷信の食物	『九州日報』1931 年 8 月 18 日
大東京の顔	大東京所感『九州日報』1930 年 9 月 24 日
ハイド・パークの有閑風景	『九州日報』1931 年 10 月 26～28 日
インテリの危機	
煙突上のインテリゲンツイヤ	『九州日報』1930 年 11 月 24 日
警官とパツカード	
暴力団の限界	
清談と政談	
闘争性の将来	
学校と学問	『週刊朝日』22-17、1932 年 10 月 9 日
教育制度の変革期	『九州日報』1930 年 10 月 26 日
父性	『九州日報』1931 年 11 月 5～7 日
教師と生徒との関係	『九州日報』1931 年 8 月 19､20 日
学校当局の答弁	『九州日報』1932 年 5 月 8～10 日
時局指導者の点検	
エノケンの芸術	エノケン『九州日報』1933 年 2 月 18 日
ムツソリーニは偉いだろうか	
スポーツ・ぐりむぶす	
早慶戦唯物史観	『九州日報』1931 年 6 月 20､21 日
野球は峠を越へた	『九州日報』1930 年 9 月 20 日
ラグビー	
マラソン競争	『九州日報』1932 年 5 月 11 日
織田幹雄選手とドイツ	『九州日報』1930 年 9 月 23 日

『強力政治の将来』河出書房、1934 年 2 月 7 日

収録評論	初出掲載誌
昭和八年政局の変局	『改造』15-1、1933 年 1 月 1 日
昭和八年政局に於ける国際政治	
政党内閣の成立は果して可能か	
後継内閣運動の種々相	
次期内閣諸運動の性質	
虚脱政治の危険性	『文芸春秋』11-3、1933 年 3 月 1 日
財政危機時代	『九州日報[夕刊]』1932 年 11 月 13､16～19 日
大同団結か小党分立か	
後継内閣論	『改造』15-5、1933 年 5 月 1 日
大政友会の煩悶	『改造』15-6、1933 年 6 月 1 日
政党政治の崩壊過程	『改造』15-7、1933 年 7 月 1 日
自由主義とフアッショ	『東京朝日新聞』1933 年 6 月 8～10 日
議会政治危機の原因	
斉藤内閣の将来	『婦人之友』27-10、1933 年 10 月 1 日
無任所大臣論	『中央公論』48-9、1933 年 9 月 1 日
挙国一致内閣の実現	挙国一致内閣の宿題『中央公論』48-10、1933 年 10 月 1 日
政局将来の動向	

一九三四年の政界展望	『中央公論』49-1、1934 年 1 月 1 日
政党政治の将来	
国際危機と我政界の対策	国際危機対策を政局は解決し得るか？『経済往来』8-4、1933 年 4 月 1 日
アメリカ外交と日本	『九州日報』1933 年 2 月 17 日
ルーズヴエルトの当選と日本政局	『経済往来』7-13、1932 年 12 月 1 日
民主党アメリカと挙国一致日本	
米国金融大恐慌の極東政治への影響	『読売新聞』1933 年 3 月 14 日
支那危局と日本政局	『経済往来』8-5、1933 年 5 月 1 日
支那動乱と国際危険	『文芸春秋』11-4、1933 年 4 月 1 日
ナチス文化政策批判－文芸アカデミー弾圧に関連して－	『読売新聞』1933 年 5 月 13、14 日
日ソ経済提携論	『読売新聞[夕刊]』1933 年 12 月 11 日

『続人物春秋』改造社、1935 年 5 月 17 日

収録評論	初出掲載誌
政界首脳部論	次の政権をめぐる人々『読売新聞』1934 年 1 月 5～8、10～12、14 日
政界人評判記	
非常時人物漫評	
高橋是清と若槻礼次郎	『改造』16-1、1934 年 1 月 1 日
首相としての斉藤実	
後藤文夫論	
林陸相の進退	
富田幸次郎論	
久原房之助論	
頭山満翁	『改造』15-10、1933 年 10 月 1 日
城戸元亮論	大毎王国騒動の文化観『改造』15-12、1933 年 12 月 1 日
直木三十五論	
横光利一論	横光利一君のぐりむぷす『アサヒグラフ』23-8、1934 年 8 月 22 日
大学総長論	『改造』15-9、1933 年 9 月 1 日
新法学部長末広巌太郎	『文芸春秋』11-11、1933 年 11 月 1 日
小野塚東大総長論	小野塚東大総長『東京朝日新聞』1934 年 4 月 15～18 日
美濃部達吉論	『中央公論』50-3、1935 年 3 月 1 日
西郷南州	『改造』17-3、1935 年 3 月 1 日
二宮尊徳の政治思想	『我観』70～73、1929 年 9 月 1 日、10 月 1 日、11 月 1 日、12 月 1 日
人物の地方色	
人物評論の科学	『社会及国家』224、1934 年 11 月 1 日
分からぬ偉人	分らない偉人－人物評論の一考察－『世界を描く－随筆五十人集』[聞人会編]立命館出版部、1935 年 1 月 2 日

『政治力の形成』＜国民平和叢書 5＞国民平和協会、1948 年 6 月 15 日

収録評論	初出掲載誌
政治力の形成	『朝日評論』3-4、1948 年 4 月 1 日
県政と国政	『熊本日日新聞』1948 年 6 月 22、23 日
宗教と政治と婦人	『熊本日日新聞』1947 年 11 月 25、26 日

『世界の命運』国立書院、1948 年 7 月 5 日

収録評論	初出掲載誌
戦争と平和－政党の理論に寄せて－	『朝日評論』1-4、1946 年 6 月 1 日
救国者は誰か	
政治における心理と感覚	『進路』2-3、1947 年 3 月 1 日
政治的真実の探求	
歴史の動因と主体	『世代』1-3、1946 年 9 月 1 日
日本の民主主義	『民主教育』1947 年 9 月・10 月
世界の命運と日本の再建	
社会科学の四次元的展開	『エコノミスト』26-2、1947 年 1 月 11 日
総選挙と政党の理想	『潮流』1-1、1946 年 1 月 1 日
終戦第一年の政治批判	
新国会と国民の良識	『婦人朝日』2-7、1947 年 7 月 1 日
片山内閣論	『時事新報』1947 年 6 月 10､13 日
社会党内閣の性格	『女性新聞』39、1947 年 6 月 21 日
政党理論の転換－社会党をめぐる政局批判－	『朝日評論』2-10、1947 年 10 月 1 日
民主政治の具体化	『九州タイムズ』1947 年 6 月 12､13 日
祖国再建の理念	『夕刊新大阪』1947 年 5 月 13 日
党略より理想へ	『読売新聞』1947 年 5 月 15 日
官僚主義を衝く	
知識階級の運命と使命	『都新聞』1947 年 5 月 7 日
再建の秋	『都新聞』1947 年 4 月 6 日
食と職	『食と生活』1-6、1946 年 11 月 1 日
書物の読方	
廿世紀の課題	『世代』2-1、1947 年 9 月 1 日
学生と政治	『大学』1-5、1947 年 11 月
政治の主体	『婦人と政治』1946 年 7 月 1 日
平和への途	『婦人之友』41-9、1947 年 9 月 1 日